

基本計画書

基本計画書											
事項		記入欄						備考			
計画の区分		短期大学の収容定員に係る学則変更									
フリガナ設置者		ガッコウホウジン イナオキガクエン 学校法人 稲置学園									
フリガナ大学の名称		カナザワセイリョウダイガクジョシタンキダイガクブ 金沢星稜大学女子短期大学部									
大学本部の位置		石川県金沢市御所町丑10番地1									
大学の目的		教育基本法及び学校教育法に従い、広く知識を授け、人格の陶冶に努めるとともに、深く専門の学問を教授研究することを目的とし、「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を建学の精神として、広く国家社会に貢献し、北陸の興隆と文化の発展に寄与することを使命とする。									
新設学部等の目的		18歳人口の減少に伴い入学者が減少し、入学定員を150人から98人に変更するとともに、教育課程を見直し、適切な学生数で教育効果を高め、社会に役立つ人材を輩出することを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地		
	経営実務科	2年	98人 (150)	-	196人 (300)	短期大学士（経営）	経済学関係	令和7年4月第1年次	石川県金沢市御所町丑10番地1		
	計										
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		令和7年4月 金沢星稜大学 人文学部国際文化学科 [定員減] (30) (令和6年4月届出済み) 人文学部国際英語学科 (30) (令和6年4月届出済み)									
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数					
		講義	演習	実験・実習	計	単位					
		科目	科目	科目	科目						
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員（助手を除く）			
新設	経営実務科	教授 6人 (6)	准教授 1人 (1)	講師 0人 (0)	助教 2人 (2)	計 9人 (9)	0人 (0)	17人 (17)			
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	2人 (2)	9人 (9)					
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)					
	小計（a～b）	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	2人 (2)	9人 (9)					
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)					
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)					
	計（a～d）	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	2人 (2)	9人 (9)					
	計	6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	2人 (2)	9人 (9)			- (-)	- (-)	
	既設	該当なし	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)			- (-)	- (-)	- (-)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)					
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)						
小計（a～b）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)						
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)						
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)						
計（a～d）	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)						
計	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)				
合計		6人 (6)	1人 (1)	0人 (0)	2人 (2)	9人 (9)	- (-)	- (-)			

職 種		専 属		その他		計										
事 務 職 員		50 (50)		8 (8)		58 (58)										
技 術 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)										
図 書 館 職 員		1 (1)		0 (0)		1 (1)										
そ の 他 の 職 員		0 (0)		0 (0)		0 (0)										
指 導 補 助 者		0 (0)		0 (0)		0 (0)										
計		50 (50)		8 (8)		58 (58)										
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計							
	校 舎 敷 地		0㎡		69,313.79㎡		0㎡		69,313.79㎡							
	そ の 他		0㎡		6,649.15㎡		0㎡		6,649.15㎡							
	合 計		0㎡		75,913.62㎡		0㎡		75,913.62㎡							
校 舎			専 用		共 用		共用する他の 学校等の専用		計							
			3,584.48㎡ (3,584.48㎡)		23,028.36㎡ (23,028.36㎡)		2,003.20㎡ (2,003.20㎡)		28,616.04㎡ (28,616.04㎡)							
教 室 ・ 教 員 研 究 室			教 室		室		教 員 研 究 室		室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕		電子図書 〔うち外国書〕		学術雑誌 〔うち外国書〕		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		機械・器具		標本			
			冊		冊		種		種		点		点			
			冊		冊		種		種		点		点			
	計		冊		冊		種		種		点		点			
スポーツ施設等			スポーツ施設		講堂		厚生補導施設									
			㎡		㎡		㎡									
経費 の見 積り 及び 維持 方法 の概 要	区 分		開設前年度		第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次		第 6 年次	
	経費の見積り		教員 1 人当り研究費等		300千円		300千円		- 千円		- 千円		- 千円		- 千円	
	経費の見積り		共同研究費等		65千円		65千円		- 千円		- 千円		- 千円		- 千円	
	経費の見積り		図書購入費		4,500千円		4,500千円		4,500千円		- 千円		- 千円		- 千円	
	経費の見積り		設備購入費		1,000千円		500千円		500千円		- 千円		- 千円		- 千円	
	学生 1 人当り 納付金		第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		第 5 年次		第 6 年次			
	学生納付金以外の維持方法の概要		1,140千円		990千円		- 千円		- 千円		- 千円		- 千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入													
大 学 等 の 名 称			金沢星稜大学													
学 部 等 の 名 称			修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	収容定員 充 足 率	開設 年度	所 在 地						
大学院			年	人	年次	人		倍								
経営戦略研究科 経済・経営学			2	10	-	20	修士（経済学・経営学）	0.70	平成14年度							

既設大学等の状況	経済学部								
	経済学科	4	220	-	880	学士（経済）	1.25	昭和42年度	石川県金沢市御所町丑10番地1
	経営学科	4	135	-	540	学士（経営学）	1.33	平成16年度	
	地域システム学科	4	85	-	340	学士（経済）	0.72	令和6年度	
	人間科学部								
	スポーツ学科	4	75	-	300	学士（人間科学）	1.03	平成19年度	
	こども学科	4	68	-	272	学士（人間科学）	1.12	平成19年度	
	人文学部								
	国際文化学科	4	75	-	300	学士（人文学）	0.97	平成28年度	
大学等の名称									
学 部 等 の 名 称									
	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
	2	150	-	300	短期大学士（経営）	0.64	昭和54年度	石川県金沢市御所町丑10番地1	
附属施設の概要									

（注）

- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については，専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」，専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
- 3 「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとする。
- 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室・教員研究室」，「図書・設備」，「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
- 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
- 7 空欄には，「 - 」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人稲置学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和7年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
金沢星稜大学				金沢星稜大学				
経済学部				経済学部				
経済学科	220	-	880	経済学科	220	-	880	
経営学科	135	-	540	経営学科	135	-	540	
地域システム学科	85	-	340	地域システム学科	85	-	340	
人間科学部				人間科学部				
スポーツ学科	75	-	300	スポーツ学科	75	-	300	
こども学科	68	-	272	こども学科	68	-	272	
人文学部				人文学部				
国際文化学科	75	-	300	国際文化学科	<u>45</u>	-	<u>180</u>	定員変更(30)
				国際英語学科	<u>30</u>	-	<u>120</u>	学科の設置(届出)
計	658	-	2,632	計	658	-	2,632	
金沢星稜大学大学院				金沢星稜大学大学院				
経営戦略研究科				経営戦略研究科				
経済・経営学専攻	10	-	20	経済・経営学専攻	10	-	20	
計	10	-	20	計	10	-	20	
金沢星稜大学女子短期大学部				金沢星稜大学女子短期大学部				
経営実務科	150	-	300	経営実務科	<u>98</u>	-	<u>196</u>	定員変更(52)
計	150	-	300	計	<u>98</u>	-	<u>196</u>	

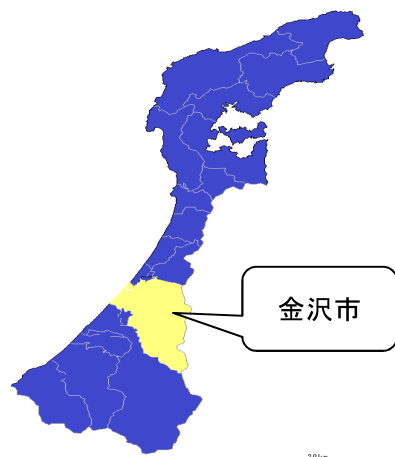
図面目次

- (1) 都道府県における位置関係の図面…………… P 2
- (2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面…………… P 3
- (3)-1、2 校地、運動場等の配置…………… P 4

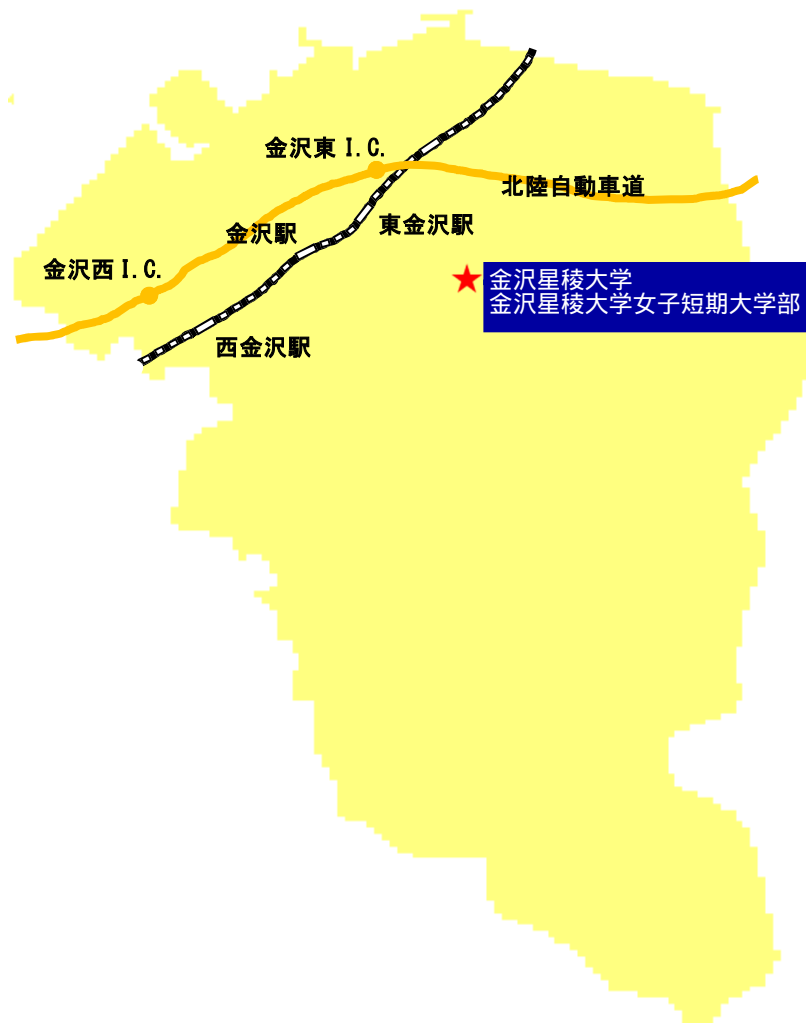
(1) 都道府県における位置関係の図面

金沢星稜大学（住所：石川県金沢市御所町丑 10 番地 1

石川県



金沢市地図



(2) 最寄り駅からの距離や交通機関がわかる図面



※ 金沢星稜大学女子短期大学部は平成24年10月より金沢星稜大学キャンパスへ移転

J R金沢駅から

- J Rバス（東口4番のりば）牧線、鳴和・星稜高経由、東長江または小二又方面行き「星稜高校」（乗車時間約15分）下車徒歩1分。
- 東口4番のりばから発車するその他のJ Rバスは、すべて「鳴和」下車、徒歩10分。
- 北陸鉄道バス（1番のりば）柳橋方面行き「鳴和」（乗車時間約15分）下車、徒歩10分。 車で10分。
- 金沢駅から金沢星稜大学まで4 km

J R東金沢駅から

- 徒歩20分（車で3分）
- 金沢星稜大学・星稜高校行き「星稜高校」（約3分）下車、徒歩1分。
- 東金沢駅から金沢星稜大学まで1.4 km

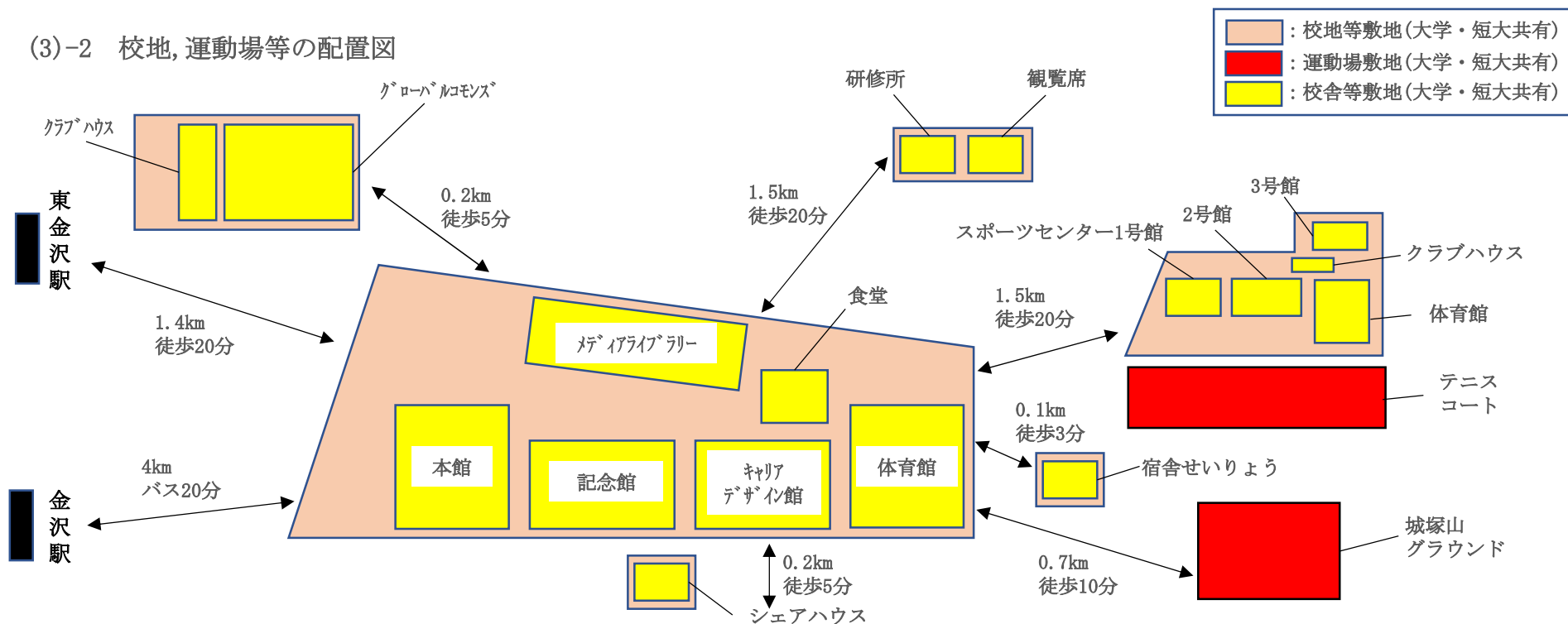
北陸自動車道 森本インターから

- 山側環状（金沢東部環状道路）を兼六園方面へ向かい東長江出口より1分。

小松空港から

- 高速バス利用で約40分。

(3)-2 校地,運動場等の配置図



【校地面積】		単位:㎡		
区分		基準内面積	基準外面積	面積合計
校舎敷地	校舎敷地	16,293.00	0	16,293.00
	グローバルコモンズ敷地	2,329.00	0	2,329.00
	スポーツセンター敷地	16,379.00	0	16,379.00
	計	35,001.00	0	35,001.00
運動用地	城塚山グラウンド	26,977.79	0	26,977.79
	テニスコート	7,335.00	0	7,335.00
	計	34,312.79	0	34,312.79
その他用地(宿舎・シェアハウス・駐車場)		0	8,546.15	8,546.15
合計		69,313.79	8,546.15	77,859.94

【校舎面積】		単位:㎡		
区分		基準内面積	基準外面積	面積合計
大学・短大 キャンパス	本館	11,950.20	745.36	12,695.56
	記念館	4,150.44	2,648.48	6,798.92
	キャリアデザイン館	4,350.47	63.65	4,414.12
	メディアライブラリー	3,058.43	105.02	3,163.45
	ヒアアップ工房	357.22	0.00	357.22
	食堂棟	940.91	0.00	940.91
	体育館	0.00	4,189.34	4,189.34
	公用車庫	0.00	85.44	85.44
	計	24,807.67	7,837.29	32,644.96
	グローバルコモンズ	3,808.37	0	3,808.37
スポーツ センター	3号館	0.00	1,231.84	1,231.84
	2号館(北棟舎)	0.00	2,494.43	2,494.43
	1号館	0.00	1,631.36	1,631.36
	体育館	0.00	785.10	785.10
	クラブハウス	0.00	255.24	255.24
	計	0.00	6,397.97	6,397.97
その他	学生宿舎	0.00	458.82	458.82
	総合運動場(研修所)	0.00	1,104.00	1,104.00
	総合運動場(観覧席)	0.00	827.80	827.80
	計	0.00	2,390.62	2,390.62
合計		28,616.04	16,994.40	45,610.44

学則 目次

- (1) 金沢星稜大学女子短期大学部学則…………… P 2
- (2) 変更事項を記載した書類…………… P 15
- (3) 変更部分の新旧対照表…………… P 16

金沢星稜大学女子短期大学部学則

第1章 総 則

(目 的)

第1条 本学は教育基本法及び学校教育法にのっとり、広い教養と実務的な専門知識を授けるとともに、建学の精神に則して強い責任感と協調の精神を涵養し、実践的人間を育成し、地方文化の向上と産業の発展に寄与し得る有為な人材を育成することを目的とする。

(自己評価等)

第2条 本学は教育水準の向上を図り、目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、不断の点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価を行うに当たっての項目の設定、実施体制等については別に定める。

(名 称)

第3条 本学は金沢星稜大学女子短期大学部と称する。

(位 置)

第4条 本学は金沢市御所町丑10番地1に置く。

第2章 教育目的、修業年限及び定員

(教育目的)

第5条 本学に経営実務科を置き、社会人としての知識、教養、道徳心を具備することで社会における規範となり、かつ専門知識に則った実務能力を涵養することで地域社会に貢献できる人材養成を目的とする。

2 学科は、前項に規定する目的を踏まえて、次の方針を定める。

(1) 卒業認定・学位授与の方針

(2) 教育課程編成・実施の方針

(3) 入学者受入れの方針

3 前項各号の方針については、別に定める。

(修業年限及び在学年限)

第5条の2 本学の修業年限は2年とし、4年を超えて在学することはできない。

2 前項の規定にかかわらず、在学年限を超えて在学を希望する者があるときは、教授会の議を経て、学長は在学を認めることができる。

(学生入学定員等)

第6条 本学の学生入学定員等は次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
経営実務科	98名	196名

第3章 学年・学期及び休業日

(学年・学期)

第7条 学年は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第8条 学年を分けて次の2期とする。

前 期 4月1日から9月20日

後 期 9月21日から3月31日

(休業日)

第9条 休業日は次に掲げるとおりとする。ただし、学長が必要と認めるときは臨時休業し、又は休業日に

授業を行うことができる。

- (1) 土曜日、日曜日及び国民の祝日に関する法律に規定する日
- (2) 学園創立記念日(10月5日)
- (3) 別に定める夏期休業日、冬期休業日及び春期休業日

第4章 授業科目・履修方法及び課程修了の認定

(授業科目)

第10条 本学は、教育上の目的を達成するために卒業認定・学位授与の方針及び教育課程編成・実施の方針に基づき必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 本学が開設する授業科目は必修科目及び選択科目に分ける。

3 授業科目の名称及び単位数は、別表1のとおりとする。

(授業の方法)

第10条の2 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を教室等以外で履修させることができる。

3 前項に規定する授業方法により履修する単位は、30単位を上限として、卒業に必要な単位とすることができる。

4 第1項の授業は、外国において履修させることができる。第2項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

5 第1項の授業の一部は、文部科学大臣が別に定めるところにより、校舎及び附属施設以外の場所で行うことができる。

(履修方法)

第11条 卒業に必要な単位数は、別表2に定めるところとし、2か年以上で修得するものとする。

2 その他履修に必要な事項は別にこれを定める。

(単位数算定の基準)

第12条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で、本学が定める時間の授業をもって1単位とする。

(3) 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習及び実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組合せに応じ、本学が定める時間の授業をもって1単位とする

2 前項の規定にかかわらず、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して、単位の授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(学修評価・単位の認定)

第13条 各授業科目の課程を履修し、学修の評価により合格した者には所定の単位を与える。

第14条 学修の評価は試験、論文その他の方法によるものとし、その方法及び評価の基準については各授業科目の担当者があらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

2 試験は原則としてその授業科目の授業が終了する期の終わりに行う。ただし、学長が必要と認めるときは随時に行うことができる。

3 学修評価は、S、A、B、C、D、Rをもってあらわし、S、A、B、C、Rを認定とする。

第15条 疾病その他やむを得ない事由により受験できない者は、その理由を明記して届け出なければならない。

2 前項の届け出により、やむを得ない理由があると認められた場合は、追試験を受けることができる。

(他の短期大学又は大学における授業科目の履修等)

第16条 本学は教育上有益と認めるときは、学生が他の短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が外国の短期大学又は大学に留学する場合に準用する。

(短期大学又は大学以外の教育施設等における学修)

第17条 本学は教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条第1項及び第2項により修得したものとみなした単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位の認定)

第18条 本学は教育上有益と認めるときは、学生が入学する前に短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 学生が入学する前に行った前第1項に規定する学修を、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、転学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第16条第1項及び前条第1項の本学で修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。この場合において第16条第2項により本学において修得したものとみなす単位数と合わせるときは45単位を超えないものとする。

(長期履修学生)

第18条の2 第5条の2第1項に定める修業年限を超える一定の期間にわたり授業科目を履修することを目的として、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、長期履修学生として入学を許可する。

2 長期履修学生について必要な事項は別に定める。

(卒業の認定)

第19条 学長は本学に2か年以上在学し、第11条に規定する単位数を修得した学生に対し卒業を認定する。

(学位の授与)

第20条 卒業を認定した学生に対し、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

第5章 入学・再入学・休学・転入学・退学及び転学

(入 学)

第21条 入学の時期は学年の始めとする。

第22条 本学に入学することのできる者は、女子で学校教育法第56条の規定により次の各号の1に該当し、
本学の行う選考に合格した者とする。

(1) 高等学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程により、これに相当する学校教育を修了した者を含む。）

(3) 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣が指定したもの

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 文部科学大臣の指定した者

(6) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（大学入学資格検定規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

(7) 本学において高等学校を卒業した者と同等の学力があると認めた者

第23条 入学志願者に対しては、学力検査、その他の方法による入学者選考を行う。

2 入学者選考に関する必要な事項は、学長が別にこれを定める。

第24条 前条第1項の入学者選考に合格した者は、学長の定めるところにより入学の手続をしなければならない。

(転入学)

第25条 他の短期大学から転入学を希望する者があるときは、学長は欠員のある場合に限り選考の上、転入学を許可することがある。

2 前項の規定により転入学を許可された者が他の短期大学に在学した年数及びその大学において取得した単位はその一部又は全部を本学における在学年数又は本学において取得した単位数に通算することができる。

(転学)

第26条 他の大学へ転学しようとする学生は、学長の許可を得なければならない。

(休学)

第27条 疾病その他やむを得ない事由により、引き続いて2か月以上修学することができない場合には、学長の許可を得て、休学することができる。

2 休学の期間は原則として1年以内とする。ただし、学長が特別の事情であると認めたときには、さらに1年延長することができる。

3 休学の期間は在学年数に算入しない。

(退学)

第28条 疾病その他やむを得ない事由により退学しようとする場合には、その事由を記載した書面を提出し、学長の許可を得なければならない。

第29条 学長は在学期間又は休学の期間を経過した者及びその他の事由により成業の見込みがないと認められる者に対しては退学を命ずることができる。

(除籍)

第30条 授業料等の納付を怠った者に対しては催告し、なお納付しない場合には、学長はこれを除籍することができる。

(復学・再入学)

第31条 休学理由が消滅したことにより、又は休学の期間が満了したことにより、復学しようとする学生は所定の様式により復学の許可を受けなければならない。

2 退学の理由が消滅したことにより再入学を希望する者は、退学の日から2年以内に限り、学長が特に適当と認めた場合に限り、再入学を許可することがある。

第6章 学費及びその他の納付金

(学費・その他の納付金)

第32条 本学の入学金・授業料等学費及び入学検定料・委託徴収金等その他の納付金の納付等に関する規程は、別にこれを定める。

第7章 科目等履修生・聴講生・委託生

(科目等履修生)

第33条 本学の開講科目中、一部の科目について履修しようとする者があるときは選考の上、科目等履修生として入学を許可することができる。

(聴講生)

第34条 本学の開講科目中、一部の科目について学修しようとする者があるときは、選考の上、聴講生として入学を許可することがある。

(委託生)

第35条 官公庁、学校その他の機関から半年以上を在学期間として特定の教育科目について修学を委託されるときは、学生に支障がない限り、選考の上委託生として入学を許可することがある。

(規定の準用)

第36条 科目等履修生・聴講生及び委託生については、本章の規定のほか、正規学生に関する規定を準用する。ただし、第19条の規定は準用しない。

第8章 教職員、教育研究実施組織等、及び教授会

(教職員)

第37条 本学に学長・教授・准教授・講師・助教・助手及び事務職員を置く。

2 本学に副学長を置くことができる。

(教職員の職務)

第38条 学長は学務を総覧し、所属職員を総轄する。

2 副学長は学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。

3 教授・准教授・講師及び助教は学生を教授し、その研究を指導し、又は研究に従事する。

4 助手は所属組織の教育研究の円滑な実施に必要な業務を行う。

5 事務職員は学長の命を受けて、諸般の事務に従事する。

(授業科目の担当)

第38条の2 本学は、各教育課程上主要と認める授業科目(以下「主要授業科目」という。)については、原則として基幹教員に、主要授業科目以外の授業科目についてはなるべく基幹教員に担当させるものとする。

2 各授業科目について、当該授業科目を担当する教員以外の教員、学生その他の本学が定める者(以下「指導補助者」という。)に補助させることができ、また、十分な教育効果を上げることができると認められる場合は、当該授業科目を担当する教員の指導計画に基づき、指導補助者に授業の一部を分担させることができる。

(教育研究実施組織)

第38条の3 本学は、教育研究上の目的を達成するため、教員及び事務職員等からなる部会及び委員会等の教育研究実施組織を編制する。

2 前項の教育研究実施組織を編制するに当たっては、教育研究活動等の運営が組織的かつ効果的に行われるよう、教員及び事務職員等相互の適切な役割分担の下での協働や組織的な連携体制を確保し、教育研究に係る責任の所在を明確にする。

3 教育研究実施組織等に関し必要な事項は、別に定める。

(組織的な研修等)

第38条の4 本学は、教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、その教員及び事務職員等に必要な知識及び技能を習得させ、並びにその能力及び資質を向上させるための研修（次項に規定する研修に該当するものを除く。）の機会を設けることその他必要な取組を行うものとする。

2 本学は、学生に対する教育の充実を図るため、授業の内容及び方法を改善するための組織的な研修及び研究を行うものとする。

(教授会)

第39条 本学に教授会を置く。

第40条 教授会は、学長、基幹教員をもって組織する。ただし、学長が必要と認めたときは、准教授その他の職員を加えることができる。

(教授会議事)

第41条 教授会は、次の事項を審議し、学長に意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学、卒業及び課程の修了

(2) 学位の授与

(3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聞くことが必要なものとして学長が定めるもの

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長の求めに応じ、意見を述べることができる。

第42条 教授会の会議は、学長が招集し、その議長となる。

第43条 構成員の3分の2以上の要求がある場合、学長は、教授会を開くことができる。

第44条 教授会の議事運営の方法は、別にこれを定める。

第9章 附属施設

第45条 本学に次の号に掲げる附属施設を金沢星稜大学と合同で置く。

(1) 図書館

(2) 総合研究所

(3) SDGs 産学地域連携センター

(4) 国際交流センター

(5) キャリアセンター

(6) 総合情報センター

第46条 前条における各施設について、必要な事項は別にこれを定める。

第10章 厚生福利、保健施設

(厚生福利、保健施設)

第47条 学生及び職員の厚生福利、保健のため、本学に学生支援センターを置く。

2 前項の学生支援センターについて必要な事項は、金沢星稜大学学生支援センター規程に定める。

第11章 賞 罰

(褒 賞)

第48条 学長は他の学生の模範となる学生を表彰することができる。

(懲 戒)

第49条 学長は本学の秩序を乱し、その他学生の本分に反する行為があったときには、教授会の議を経て、学生を懲戒することがある。

2 懲戒の種類は訓告、停学及び退学とする。

第12章 学則の改正

(学則の改正)

第50条 学則の改正は教授会の議を経て、理事会の承認を得なければならない。

第13章 雑 則

(雑 則)

第51条 この学則に定めるもののほか、本学の運営について必要な事項は、学長がこれを定める。

付 則

昭和54年4月1日制定施行

付 則

昭和58年4月1日一部改正（単位数の変更）

付 則

昭和60年1月16日一部改正（入学定員増）

付 則

昭和63年4月1日一部改正（学納金の変更）

付 則

平成5年4月1日一部改正（総合教育科目・科目等履修生・授業科目表示変更）

付 則

平成12年4月1日一部改正（入学定員減・自己評価等・履修方法等の変更）

付 則

平成15年4月1日一部改正（長期履修学生・学費等納付方法の変更）

付 則

平成16年10月1日一部改正（副学長を追加し、文部大臣を文部科学大臣に変更）

付 則

1 第19条第2項を削除し、第20条に学位の授与を追加し、それに伴う条数の変更を行い、平成17年12月16日より施行する。

2 別表1及び2の変更については、平成18年度以降の入学者を対象とし、平成18年4月1日より施行する。

ただし、平成17年度以前の入学者については、従前の別表1及び2を適用する。

付 則

- 1 学校教育法及び学校教育法施行規則の一部改正を受け、入学資格及び教職員の条項を改正し、並びに授業科目名称を改正し、平成19年4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成19年度入学生より適用する。

付 則

- 1 大学設置基準等の一部を改正する省令等の施行を受け、教育目的、単位算定の基準並びに成績評価基準の条項等及び授業科目名称等の変更に伴う別表1、別表2を改正し、平成20年4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成20年度入学生より適用する。

付 則

- 1 学修評価の評語の変更並びに授業科目及び単位数の変更に伴う別表1、別表2を改正し、平成21年4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成21年度入学生より適用する。
- 3 平成20年度以前の入学生については従前の別表1及び別表2を適用する。

従前の別表1および別表2（平成20年度以前の入学生用）

付 則

- 1 聴講生等の変更並びに授業科目及び単位数の変更に伴い別表1、別表2を改正し、平成22年4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成22年度入学生から適用し、平成21年度の入学生については従前の別表1及び2を適用する。

従前の別表1及び別表2（平成21年度入学生用）

付 則

- 1 授業科目及び単位数の変更に伴い、別表1、別表2を改正し、平成23年度4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成23年度入学生より適用し、平成22年度の入学生については従前の別表1及び2を適用する。

（従前の別表）別表1 授業科目及び単位数平成22年度の入学生

（従前の別表）別表2 卒業に必要な単位数平成22年度の入学生

付 則

- 1 授業科目及び単位数の変更に伴い、別表1、別表2を改正し、平成24年度4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成24年度入学生より適用し、平成23年度の入学生については従前の別表1及び2を適用する。

（従前の別表1） 別表1 授業科目及び単位数 平成23年度の入学生

（従前の別表2） 別表2 卒業に必要な単位数 平成23年度の入学生

平成24年度入学生

別表1 授業科目及び単位数

総合教育科目 検定講座

別表2 卒業に必要な単位数

付 則

名称を変更し、平成24年4月1日より施行する。

付 則

平成24年9月21日に位置（所在地）の変更に伴い一部改正し、平成24年9月21日より施行する。

付 則

- 1 この学則は、平成25年3月8日に教授会の審議事項追加、図書館に関する取扱い及び厚生福利、保健施設に関する条項を加え、平成25年4月1日より施行する。
- 2 授業科目及び単位数の変更に伴い別表1、別表2を改正し、平成25年4月1日より施行する。
- 3 別表1及び別表2については、平成25年度入学生より適用し、平成24年度の入学生については従前の別表1及び別表2を適用する。

（従前の別表）別表1 授業科目及び単位数 平成24年度の入学生

総合科目 専門科目 検定講座

（従前の別表）別表2 卒業に必要な単位数 平成24年度の入学生

卒業に必要な単位数

付 則

- 1 この学則は、平成26年2月21日に授業科目、履修方法、学修評価・単位の認定、転学及び留学生について改正し、平成26年4月1日より施行する。
- 2 授業科目及び学修評価・単位の認定の変更にについては、平成26年度入学生より適用する。

平成26年度入学生

（別表1） 授業科目及び単位数

（別表2） 卒業に必要な単位数

付 則

- 1 この学則は、平成27年2月27日に厚生福利、保健施設を一部改正し、平成26年9月1日に遡って施行する。
- 2 学校教育法の一部改正に伴い教職員の職務及び教授会議事を一部改正し、平成27年4月1日から施行する。
- 3 授業科目の変更に伴い、別表1を改正し、平成27年4月1日から施行する。
- 4 別表1については、平成27年度入学生より適用し、平成26年度入学生については従前の別表1を適用する。

平成27年度入学生

（別表1） 授業科目及び単位数

付 則

- 1 この学則は、平成28年2月26日に学習評価・単位の認定及び別表1・別表2を一部改正し、平成28年4月1日より施行する。

平成28年度入学生

（別表1） 授業科目及び単位数

（別表2） 卒業に必要な単位数

- 2 平成27年度以前の入学生については、従前の別表1及び別表2を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成29年3月24日に附属施設、別表1及び別表2を一部改正し、平成29年4月1日より施行する。
- 2 別表1及び別表2については、平成29年度入学生より適用する。

(別表 1) 授業科目及び単位数

(別表 2) 卒業に必要な単位数

- 3 平成28年度以前の入学生については、従前の別表 1 並びに別表 2 を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成30年 2 月23日に別表 1 及び別表 2 を一部改正し、平成30年 4 月 1 日より施行する。
2 別表 1 及び別表 2 については、平成30年度入学生より適用する。

(別表 1) 授業科目及び単位数

(別表 2) 卒業に必要な単位数

- 3 平成29年度以前の入学生については、従前の別表 1 並びに別表 2 を適用する。

付 則

- 1 この学則は、平成31年 2 月22日に附属施設及び別表 1 を一部改正し、平成31年 4 月 1 日より施行する。
2 別表 1 については、平成31年度入学生より適用する。

(別表 1) 授業科目及び単位数

- 3 平成30年度以前の入学生については、従前の別表 1 を適用する。

付 則

この学則は、令和 2 年 5 月 1 日に授業の方法に関する事項を新たに規定し、規定の準用を一部改正し、令和 2 年 5 月 1 日から施行する。

付 則

- 1 この学則は、令和 3 年 4 月 1 日に別表 1 を一部改正し、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。

(別表 1) 授業科目及び単位数

- 1 令和 2 年度以前の入学生については、入学時の別表 1 を適用する。

付 則

- 1 この学則は、令和 4 年 4 月 1 日に別表 1 及び別表 2 を一部改正し、令和 4 年 4 月 1 日より施行する。
2 別表 1 及び別表 2 については、令和 4 年度入学生より適用する。

別表 1 (授業科目及び単位数)

別表 2 (卒業に必要な単位数)

- 3 令和 3 年度以前の入学生については、従前の別表 1 及び別表 2 を適用する。

付 則

- 1 この学則は、令和 5 年 4 月 1 日に別表 1 及び別表 2 を一部改正し、令和 5 年 4 月 1 日より施行する。
2 別表 1 及び別表 2 については、令和 5 年度入学生より適用する。

別表 1 (授業科目及び単位数)

別表 2 (卒業に必要な単位数)

- 3 令和 4 年度以前の入学生については、従前の別表 1 及び別表 2 を適用する。

付 則

- 1 この学則は、令和 6 年 4 月 1 日に別表 1 を一部改正し、令和 6 年 4 月 1 日より施行する
2 別表 1 については、令和 6 年度入学生より適用する。

別表 1 (授業科目及び単位数)

- 3 令和 5 年度以前の入学生については、従前の別表 1 を適用する。

付 則

- 1 この学則は、令和 6 年 4 月 1 日に自己点検・評価、授業科目、別表1 及び地域連携センターの名称変更

等の一部改正並びに授業科目の担当、教育研究実施組織等及び組織的な研修等を新たに規定し、令和6年4月1日から施行する。

- 2 別表1については、令和6年度入学生より適用する。

別表1（授業科目及び単位数）

- 3 令和5年度以前の入学者については、従前の別表1を適用する。

付 則

- 1 この学則は、令和7年4月1日に入学定員等について一部改正し、令和7年4月1日から施行する。
2 第6条に定める収容定員については、令和7年度から令和8年度までは次の表のとおりとする。

学科	令和7年度	令和8年度
経営実務科	248	196

別表1〔授業科目及び単位数〕

経営実務科

区分	科 目 名	単位
基礎科目	日本語表現法Ⅰ	2
	English Communication	2
	キャリアデザイン	1
	キャリア実習Ⅰ	1
	キャリア実習Ⅱ	1
	経営学Ⅰ	2
	経営実務Ⅰ	2
	簿記演習Ⅰ	4
	ICT活用実習	2
	プレゼンテーション	1
	クラスコミュニティ	2
	プレゼミナール	2
	ゼミナール	4
教養科目	基礎の国語	2
	基礎の数学	2
	MDASHリテラシーⅠ	1
	MDASHリテラシーⅡ	1
	日本語表現法Ⅱ	2
	Enjoy English a	2
	Enjoy English b	2
	Enjoy English c	2
	Enjoy English d	2
	Enjoy English e	2
	Intercultural CommunicationⅠ	2
	Intercultural CommunicationⅡ	2
	Business English CommunicationⅠ	2
	Business English CommunicationⅡ	2
	TOEICⅠ	2
	TOEICⅡ	2
	アジアスタディーズa	2
	アジアスタディーズb	2
	くらしと経済	2
	くらしと法律	2
	スポーツ実技a	1
	スポーツ実技b	1
	現代教養a	2
	現代教養b	2
	現代教養c	2
	現代教養d	2
	現代教養e	2
	海外研修	4
	心理学入門	2
	生きるための哲学・倫理学	2
単位互換科目		

区分	科 目 名	単位
専門科目	経営学Ⅱ	2
	マーケティング論Ⅰ	2
	マーケティング論Ⅱ	2
	アントレプレナーシップ	2
	人的資源管理論	2
	経営組織論	2
	ベンチャー企業論	2
	流通業界研究	2
	経営実務Ⅱ	2
	経営実務Ⅲ	2
	経営実務Ⅳ	2
	簿記演習Ⅱ	4
	簿記演習Ⅲ	4
	簿記演習Ⅳ	2
	簿記演習Ⅴ	4
	金融実務演習Ⅰ	2
	金融実務演習Ⅱ	2
	税務会計演習	2
	会計演習Ⅰ	2
	会計演習Ⅱ	2
	秘書実務演習	2
	オフィスPC実習a	1
	オフィスPC実習b	1
	オフィスPC実習c	1
	ビジネスソフト実習	1
	情報技術a	1
	情報技術b	1
	情報技術c	1
	情報技術d	1
	情報技術e	1
	情報化社会論	2
	情報化社会論実地研修	2
	観光学a	2
	観光学b	2
	ブライダルコーディネート	2
公務員	一般知能基礎	4
	一般知識基礎	4
会計	財務会計基礎	4
	原価計算基礎	4
	財務会計応用	4
	原価計算応用	4
単位互換科目		

※単位互換科目については、各年度の当初に対象科目を教授会にて指定する。

別表2〔卒業に必要な単位数〕

経営実務科

区分		卒業に必要な単位数	
基礎科目	必修	26単位	68単位以上
教養科目	選択	6単位以上	
	単位互換科目		
専門科目	選択	12単位以上	
	単位互換科目		

変更事項を記載した書類

1 変更の事由について

18 歳人口の減少に伴い入学者が減少し、入学定員を 150 人から 98 人に変更するとともに、教育課程を見直し、適切な学生数で教育効果を高め、社会に役立つ人材を輩出することを目的とする。

2 変更点について

収容定員について、現在、経営実務科 300 名のところ、196 名とする。これに伴い、入学定員は、現在、経営実務科 150 名のところ、98 名とする。

3 変更の時期について

令和 7 年 4 月 1 日施行とする。令和 7 年度入学者の入学手続から適用することとする。

金沢星稜大学女子短期大学部学則 新旧対照表

新			旧		
金沢星稜大学女子短期大学部学則			金沢星稜大学女子短期大学部学則		
第2章 教育目的、修業年限及び定員 (学生入学定員等)			第2章 教育目的、修業年限及び定員 (学生入学定員等)		
第6条 本学の学生入学定員等は次のとおりとする。			第6条 本学の学生入学定員等は次のとおりとする。		
学 科	入学定員	収容定員	学 科	入学定員	収容定員
経営実務科	98名	196名	経営実務科	150名	300名
付 則					
1 この学則は、令和7年4月1日に入学定員等について一部改正し、令和7年4月1日から施行する。					
2 第6条に定める収容定員については、令和7年度から令和8年度までは次の表のとおりとする。					
学科	令和7年度	令和8年度			
経営実務科	248	196			

学則変更の趣旨等 目次

ア 学則変更（収容定員変更）の内容・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
イ 学則変更（収容定員変更）の必要性・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容・・・・・・・・	P 3

学則変更の趣旨等を記載した書類

ア 学則変更（収容定員変更）の内容

金沢星稜大学女子短期大学部（以下「本学」）では、令和 7 年度より、入学定員を 150 名から 98 名に変更する。なお、収容定員は令和 7 年度は経過措置として 248 名、令和 8 年度以降は 196 名に変更する。

新	旧
経営実務科 入学定員 98 名 収容定員 196 名	経営実務科 入学定員 150 名 収容定員 300 名

収容定員経過措置

		令和 7 年度	令和 8 年度
経営実務科	1 年次	98 名	98 名
	2 年次	150 名	98 名
	合計	248 名	196 名

イ 学則変更（収容定員変更）の必要性

北陸地域の短期大学を取り巻く環境および本学の直近三年間の入学定員未充足の状況に鑑み、入学定員及び収容定員を減ずることとした。

本学では、定員充足に向けた方策として、授業内容の見直しや教員による高校訪問及びオープンキャンパスの充実等を行ってきた。授業内容の見直しについては、学生の意見も参考にしつつ商品開発から販売までを体験する PBL 型の科目「経営実務」、
「
」を設けるなどした。また、高校訪問では全教員が北陸三県の高校を訪れ、進路担当の先生方へのインタビューや本学の教育内容についての説明を行った。オープンキャンパスでは学生スタッフを中心に本学の魅力について積極的にアピールした。

しかし、短期大学を取り巻く環境は予想以上に厳しかった。高校訪問時のインタビューでも短期大学を希望する生徒は年々減少しており四大志向が強まっているとの回答が多かった。実際、本学においてもここ数年は定員を充足できず、近年の環境の変化を実感していた。そこで実態に合った定員数への変更が必要であると判断し、入学定員および収容定員の変更を行うこととした。

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
入学者数	125 名	107 名	90 名

ウ 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

(ア)教育課程の変更内容

教育課程の変更は行わない。

(イ)教育方法及び履修指導方法の変更内容

クラス数（４クラス）やゼミナール数（６ゼミナール）に変更はないため、１クラス及び１ゼミナール当たりの学生数が減少し、よりきめ細かな指導が期待できる。

(ウ)教員組織の変更内容

学則変更（収容定員変更）に伴う短期大学設置基準を満たす教員組織とする。なお、2024年度は本学の基幹教員数が９名であり、短期大学設置基準で規定する教員数よりも１名少なかったが、これは2024年３月に基幹教員の突発的な退職が生じたためである。

(エ)大学全体の施設・設備の変更内容

大学全体の施設・設備の変更は行わない。

学生の確保（本文） 目次

(1) 収容定員を変更する組織の概要	P 2
収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）	P 2
収容定員を変更する組織の特色	P 2
(2) 人材需要の社会的な動向等	P 2
収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析	P 2
中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	P 3
収容定員を変更する組織の主な学生募集地域	P 4
既設組織の定員充足の状況	P 4
(3) 学生確保の見通し	P 5
学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	P 5
競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	P 5
先行事例分析	P 7
学生確保に関するアンケート調査	P 7
人材需要に関するアンケート調査等	P 7
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	P 7

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 収容定員を変更する組織の概要

収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

収容定員を変更する組織	入学定員	収容定員	所在地 (教育研究を行うキャンパス)
金沢星稜大学女子短期大学部 経営実務科	98	196	石川県金沢市御所町丑10番地1

収容定員を変更する組織の特色

金沢星稜大学女子短期大学部（以下「本学」という。）の前身である星稜女子短期大学は、地元産業界からの要望に応え、日本で初めて女子産業人を育成すること、かつ理論に裏打ちされた実務教育を行うことを目指して、昭和54（1979）年金沢市御所町西の地に開学した。

本学の実務教育は、当時の講義棟1階すべてを実習室に当て、実社会の要請に応え得る体制を整えていた。理論科目も豊富で40を超える専門理論科目が、経営実務科の税務会計コースと経営秘書コースにおいて開講され、これら理論科目と20に及ぶ実習科目が、補完関係をなすカリキュラム体系を形成していた。こういった特徴を持つ本学の实務教育は、地元北陸地区の教育機関ばかりではなく、その後新設された全国の大学・短期大学のモデルケースとなって、注目を浴びることとなった。

令和6（2024）年3月現在、本学の卒業生は7,000名を超え、地元産業界で広く活躍している。本学は、今後も建学の精神である「誠実にして社会に役立つ人間の育成」、教育理念「知性と感性を身につけ、地域社会で輝く女性を育む」を堅持し、地元産業界の将来を担う「女性職業人」を輩出し続けていく。

(2) 人材需要の社会的な動向等

収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

本学は1979年の開学以来、日本銀行金沢支店や各自治体、地元の企業に人材を輩出してきた。短期大学への進学希望者が全国的に減少してきたことは否めないが、現在もなお、地元の企業等への人材の輩出が期待されている。実際に2024年度も上場企業、地方銀行など地元の企業からの従来どおり求人があり、本学の学生に対する採用について意欲的であり、就職実績にも表れている。

<卒業年度別就職実績>

卒業年度	卒業者数	就職希望者	就職者数	内定率	就職率
2023年度	118人	115人	114人	99.1%	96.6%
2022年度	130人	114人	113人	99.1%	86.9%
2021年度	145人	132人	129人	97.7%	89.0%
2020年度	168人	161人	159人	98.8%	94.6%
2019年度	177人	165人	162人	98.2%	91.5%

中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

本学は、経営実務系の短期大学として全国にさきがけて 30 年以上前に、「女性人材の質的向上」という地元経済界の期待を担い、「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を建学の精神として開学した。本学からは、これまでに 7,000 名を超える卒業生を社会に輩出している。地域社会で輝く女性人材の育成を教育理念とし、本学卒業の多くの方々が地元の様々な企業で活躍した結果として、地元石川の企業には「星短生は即戦力になる」というブランドイメージがしっかりと定着している。

令和 6(2024)年 3 月卒業生においては、就職者の約 85%が本学の所在地である石川県内の企業に就職し、業種別就職状況を見ると、就職者の約半数が本県の基幹産業である製造業(事務職)・情報通信業及び卸売小売業に就職していることから、地域社会のニーズに応え地域を支える社会人として活躍していることがわかる。

石川県は多様な伝統工芸産業と共に製造業が盛んであり、国内屈指のものづくり王国として知られている。県の基幹産業は機械、繊維、食料品であり、出荷額別では機械が約 7 割を占め、繊維と食料品がその後に次いでいる。機械の中では一般機械、産業用機械、繊維機械、建設機械などがその中心であるが、近年は情報通信機器や電子部品の製造も伸びている。繊維の出荷額は全国上位で、石川県の基幹産業の一つとして重要な位置付けとなっている。また、新鮮な食材と豊かな食文化を背景に発展した食品産業も、石川県の特徴的な産業として常に注目されている。これに加え、近年は IT・情報サービス業も著しく成長しており、日本の産業界を支え、牽引する企業が多数ある。さらに、平成 27(2015)年 3 月の北陸新幹線の開業に伴い、東京ー金沢間が最速で 2 時間 28 分で行き来できるようになったことから、新幹線利用者は在来線当時の 3 倍弱(初年度)にのぼり、平成 21(2009)年に約 231 万人だった金沢市内の年間宿泊者数は、平成 29(2017)年には約 319 万人まで増加した。このうち、約 9 万人だった外国人は、約 44 万人と 4 倍以上に増えた。増加分の 4 割を外国人が占めている計算である。これによってホテル需要も好調で、ホテルの新築・改装工事が進み、客室数が名古屋市などを抜いて全国 10 位以内になると見込まれている。金沢商工会議所によると、新幹線開業から 2 年目までに、石川県内に出差機関を新設した県外企業は約 70 社に上る(東洋経済オンライン、2020.7.14)。このように観光産業が大いに発展し、ビジネス面でも交通インフラの大幅強化が追い風となっていた。しかし令和 2(2020)年からの新型コロナウイルス感染拡大による「緊急事態宣言」や「蔓延防止措置」等の発令を受けて、石川県内の観光客数は大きく減少した。例えば代表的な観光施設である兼六園入場者数は、令和元(2019)年度には 259 万人余りであったが、令和 2(2020)年度は、73 万人余りと対前年度の 28%に激減し、観光業界は大きな打撃を受けることとなった(金沢市「博物館・同類似施設・兼六園入場者数」)。しかし、令和 5(2023)年の兼六園入園者数は 214 万 462 人で、有料化以降で最少だった令和 3(2021)年の 87 万 9359 人の 2.5 倍近くになった。今後はインバウンド観光も含め旅行業界の順調な回復が期待できる。

石川県における出生数は、減少傾向にあり女子の短期大学への進学者数も全国的には同様の傾向である。しかし、地元への進学率は、若干ではあるが増加しており、北陸三県内では最も残留率が高い。石川県内における企業の状況からも、本学卒業後における就職は継続して高い実績を残すことが期待でき、本学の競合校となる専門学校への進学者層も含めると新たに定めた入学定

員を充足できると考えている。

< 石川県の出生数 >

H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
10,235	10,294	10,199	9,849	9,602	9,555	9,544	9,444	9,449	9,072

データ元：人口動態統計 石川県分の概況

(リクルート進学総研 マーケットリポート 2023「18歳人口予測大学・短期大学・
専門学校進学率 地元残留率の動向」北陸版 資料1)

収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

本学の入学者は従来の実績から高等学校卒業後の現役者に限られ、外国人、社会人の入学者は稀であり、今後も同様に入学者は現役者によると考えられる。また既卒者における入学者は、石川県の金沢市を中心とする加賀地域からの自宅通学者が中心となっている。石川県の地元からの入学者が80パーセントを超え、北陸三県の進学者で占めている。学校基本調査のデータが示すとおり、石川県内の他校においても同様に地元進学者で入学者の80パーセントを占めている。富山県から石川県内への入学者比率は、約13パーセントで推移している。

さらなる入学者確保のため募集地域については、石川県の南部の地域、高岡・砺波地区を中心とした富山県の西部地域、福井県にも高等学校訪問を実施し、石川県以外の地域にも重点を置く。富山県の高岡・砺波地区を中心とした富山県の西部地域は、自宅からの通学圏内でもあり、石川県内における他の短期大学や富山県内にある2校の私立短期大学と比較しても本学へのアクセスは好条件となっている。

北陸三県を中心とし、さらに各県の地区を絞り込んだ募集活動を展開する。

(女子生徒の短期大学への進学状況 資料2)

既設組織の定員充足の状況

石川県内の短期大学全体での志願者数は、2018年度で1,033名から2023年度では685名となり入学者数は2018年度673名から2023年の498名と激減している。2023年度からは4つあった石川県内の短期大学の内、1校が募集停止となっている。

本学でも定員150名に対して、2018年度は志願者401名に対して、入学者181名であり2020年までは定員を充足していたが、2021年以降入学定員を下回り、2023年度では入学定員充足率が71.3パーセントとなった。

これらの志願者数が減少した原因は、直接的には人口減によるところが大きいと思われるが、間接的には地元の国立大学又は私立大学の併願先となっていることも関係していると考えている。人口減によりそれら併願先の合格のハードルが下がり志願者数そのものが減少し、更に併願校の合格率が高まったため、本学への入学者減少につながっている。

また、コロナ禍、天災などの影響により短期大学ではなく、いわゆる「手に職」という考え方のもとに、専門学校への進学を志す高校生もあり、人手不足による求人数の増加も高校卒業後の就職者数の増加に影響し、本学への志願者数や入学者数に影響を及ぼしている可能性がある。

(県内短期大学の入学者選抜状況 資料3-1)

(志願者・入学者の状況 資料3-2)

(3) 学生確保の見通し

学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

少子化の進展、グローバル化、生涯学習時代の到来に合わせ、学生募集が経営の課題に直結することを念頭におき対策を模索してきた。

本学は、北陸地域において経営実務の教育研究を行う代表的な短期大学であり、多くの卒業生が北陸のビジネス界で活躍している。経営実務だけでなく、キャリアやグローバルな視野を養う正課授業や CDP (キャリア・デベロップメント・プログラム) 等の正課外プログラムは、本学の特長であり、これらの特長のアピールが不十分であったため、新たに特長をまとめた資料をもとに高校生や高等学校に対し、丁寧に説明し、募集活動を展開してきた。さらには、本学の具体的なカリキュラムを高校生や高等学校の担任又は進学指導教員、保護者に理解してもらうために、科目名にわかりやすい副題をつけカリキュラムにも工夫を行い、志願者アップのため取り組んできた。

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

令和 6 年度入試の志願者は 163 人にとどまったが、令和 7 年度の入学定員 98 名の充足を目標にして、高校生及び高等学校の教員に本学の魅力を伝えるため、本学の全教育職員が分担して北陸三県的高等学校を中心として、具体的な教育の内容を周知し、興味関心度を高める募集活動を展開する。これまで事務職員が中心となって 6 月以降に本格化していた高校訪問による募集活動を年度当初に時期を早め、競合校よりも早く募集活動を行うことで、学生の状況や授業内容について、より具体的な情報を発信し、興味関心度あるいは出願意欲を高めていく。また、従来どおり高等学校の教員とともに高校生を本学に招いた説明会や本学の教育職員による出前授業を実施し、オープンキャンパスでは、高校 3 年生のみならず、1・2 年生と保護者もターゲットとして呼び込み、本学の興味関心度を高めていく。

また、本学の Web サイトの他に YouTube や Instagram、保護者世代を対象に Facebook などの SNS を活用し、頻繁に情報発信を行うことで本学のアピールポイントを訴求していく。

さらに受験生が年内入試を重視する方向にシフトしていることを鑑み、新たな指定校推薦枠を増やし、従来から指定校推薦枠を設けている高校にも指定校枠数も増加させるなどの対策も行う。

(資料請求件数 (学年別) (2022 年度 ~ 2024 年度) 資料 4 — 1)

(オープンキャンパス参加者数推移 (2020 年度 ~ 2024 年度) 資料 4 - 2)

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

募集地域の状況や前述ア、イを踏まえて新たに定める入学定員 98 名の入学者を獲得する見込みである。

競合校の状況分析 (立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)

ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析、優位性

本学は経営実務科であり、ビジネスパーソンとして即戦力となる人材を養成するために、経営学の基礎とともに経営実務につながる演習を中心とした教育を行っている。さらに、グローバルな感覚を養うために短期の留学制度やビジネスパーソンに課せられる TOEIC など英語教育も充実させている。

直接的な競合校としては、金城大学短期大学部ビジネス実務学科や金沢学院短期大学現代教養学科が考えられる。これらの競合に対して本学は公務員、資格試験の実績及び地元の上場企業への就職実績で優位に立っていると考えている。

また、ビジネス系の専門学校に対しては、同様の資格試験や公務員試験を目指せるとともに、短期大学士の学歴を得られることで優位である。

入学試験は、年明けの入学者選抜一般方式や大学入学共通テストの利用なども従来から実施しているが、いわゆる年内入試を重視し、それに伴うオープンキャンパスを実施している。

また、県内外の遠距離通学支援を実施し経済的な支援も実施している。

イ 競合校の入学志願動向等

石川県内の短期大学全体での志願者数は、2018 年度 1,033 名から 2023 年度 685 名と大きく減少しており、入学者数は 2018 年度 673 名から 2023 年度の 498 名と激減している。2023 年度からは 4 校あった石川県内の短期大学の内、1 校が募集停止となっている。

金城大学短期大学部ビジネス実務学科では定員 135 名に対して、2021 年度から 2023 年度の志願者が 141 名、129 名、112 名、同期間の入学者も 104 名、112 名、92 名となっており未充足となっている。また、金沢学院短期大学現代教養学科では定員 50 名に対して、2021 年度から 2023 年度では、志願者が 105 名、92 名、73 名となっており、入学者 52 名、61 名、52 名となっておりいずれも減少してきているが定員を充足している。

短期大学への進学者層は、自宅からの利便性を考慮して、進学先を選択する傾向にあることを高等学校からのヒアリングで把握しており、本学への志願が減少している小松方面からの入学者獲得が重要であると考えている。教育内容の改善はもとより本学の強みである就職指導や実績を訴求し、興味関心度を高めることで入学定員を確保できると考えている。

ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等（競合校定員未充足の場合のみ）

上記アにも記載のとおり、卒業後の企業への就職実績で競合校より優位性が高いと考えている。また、本学独自の教育プログラムである CDP により、公務員試験の合格率も高く、就職実績のみならず、本学の取り組みについても評価されている。これまで基本情報を中心とした職員による募集活動を展開していたが、教育職員も高等学校に出向き、より詳細かつ具体的な教育内容や指導等の情報を提供することで高等学校における本学の理解度を高め、高等学校の教員において本学への進学を促す効果を高めることができ、入学定員の確保が可能であると考えている。

エ 学生納付金等の金額設定の理由

カリキュラム改正により、さらなる教育内容の充実を図るものの、経済的理由で高等教育機関への進学を断念せざるを得ない状況を回避することを考慮し、学生納付金等の値上げは行わず、現行の金額として変更しない。

先行事例分析

該当なし。

学生確保に関するアンケート調査

新設組織ではないため、過年度における入試の実績及び高等学校への訪問活動等で収集した情報に基づき、学生募集戦略及び入試方針を策定しており、アンケート調査は行っていない。

人材需要に関するアンケート調査等

本学の卒業生の就職先に対し、アンケート調査を実施している。本学卒業生の職業人としての基礎的な能力や企業ニーズの対応度合い等を含め、本学の教育に対する評価も高く、採用意欲も非常に高い結果が出ている。

(競合校の入学志願動向等 資料 3 - 1)

(企業アンケート結果 資料 5)

(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由

北陸地域の短期大学を取り巻く環境及び本学の直近三年間の入学定員未充足の状況に鑑み、入学定員及び収容定員を減ずることとした。

短期大学を取り巻く環境は厳しく、高等学校訪問時のインタビューでも短期大学への進学を希望する生徒は年々減少しており、四大志向が強まっているとの回答が多かった。実際に本学においてもここ数年は定員を充足できず、近年の環境の変化を実感していた。そこで実態に合った定員数への変更が必要であると判断し、入学定員及び収容定員の変更を行うこととした。

学生確保（資料） 目次

資料 1	リクルート進学総研 マーケットリポート 2023「18 歳人口予測大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向」北陸版……………	P 2
資料 2	女子生徒の短期大学への進学状況……………	P17
資料 3 - 1	県内短期大学の入学者選抜状況、競合校の入学志願動向等……………	P18
資料 3 - 2	志願者・入学者の状況……………	P19
資料 4 - 1	資料請求件数（学年別）（2022 年度～2024 年度）……………	P20
資料 4 - 2	オープンキャンパス参加者数推移（2020 年度～2024 年度）……………	P21
資料 5	企業アンケート結果……………	P23

18歳人口予測 大学・短期大学・専門学校進学率 地元残留率の動向 北陸版

- 富山県・石川県・福井県 -



【将来予測 2023～2035年】

▶18歳人口予測 P2～P4

- ・ 2023年26,692人→2035年22,038人（4,654人減少）
- ・ 減少率が高いのは、富山県（2023年比較21.2%減少）
- ・ 減少数が多いのも、富山県（2023年9,304人→2035年7,335人、1,969人減少）

【経過推移 2014～2023年】

▶進学者数・進学率（現役）の推移 P5～P10

進学者数

- ・ 大学は、2014年11,959人→2023年13,259人（1,300人増加）と、10.9%増加
- ・ 短期大学は、2014年2,059人→2023年1,217人（842人減少）と、40.9%減少
- ・ 専門学校は、2014年4,182人→2023年3,717人（465人減少）と、11.1%減少

進学率（現役）

- ・ 大学は、2014年44.8%→2023年54.4%（9.6ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2014年7.7%→2023年5.0%（2.7ポイント低下）
- ・ 専門学校は、2014年15.7%→2023年15.3%（0.4ポイント低下）

▶地元残留率の推移 P11～P13

- ・ 大学は、2014年30.5%→2023年34.3%（3.8ポイント上昇）
- ・ 短期大学は、2014年72.2%→2023年74.1%（1.9ポイント上昇）

▶北陸エリア概要（全体：県別） P14～P15

■分析・データについて

- ① 18歳人口予測は、文部科学省「学校基本調査」より、以下の通り定義して算出した。
 - ・ 18歳人口＝3年前の中学校卒業生及び中等教育学校前期課程修了者数と義務教育学校卒業生数
 - ・ 中学校卒業生数＝高校生＋フリーター＋就職者 全て含む
- ② 表内の「年」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- ③ 表内の「指数」とは、グラフ開始年の値を100とおいた際の値を示す。
- ④ 卒業生数とは、高等学校を卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）。
- ⑤ 進学者数とは、高等学校卒業生のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数。
- ⑥ 進学率（現役）とは、進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）で算出した。
- ⑦ 残留率とは、自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）。
- ⑧ 図表で利用している百分率（％）は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、数値の和が100.0にならない場合がある。

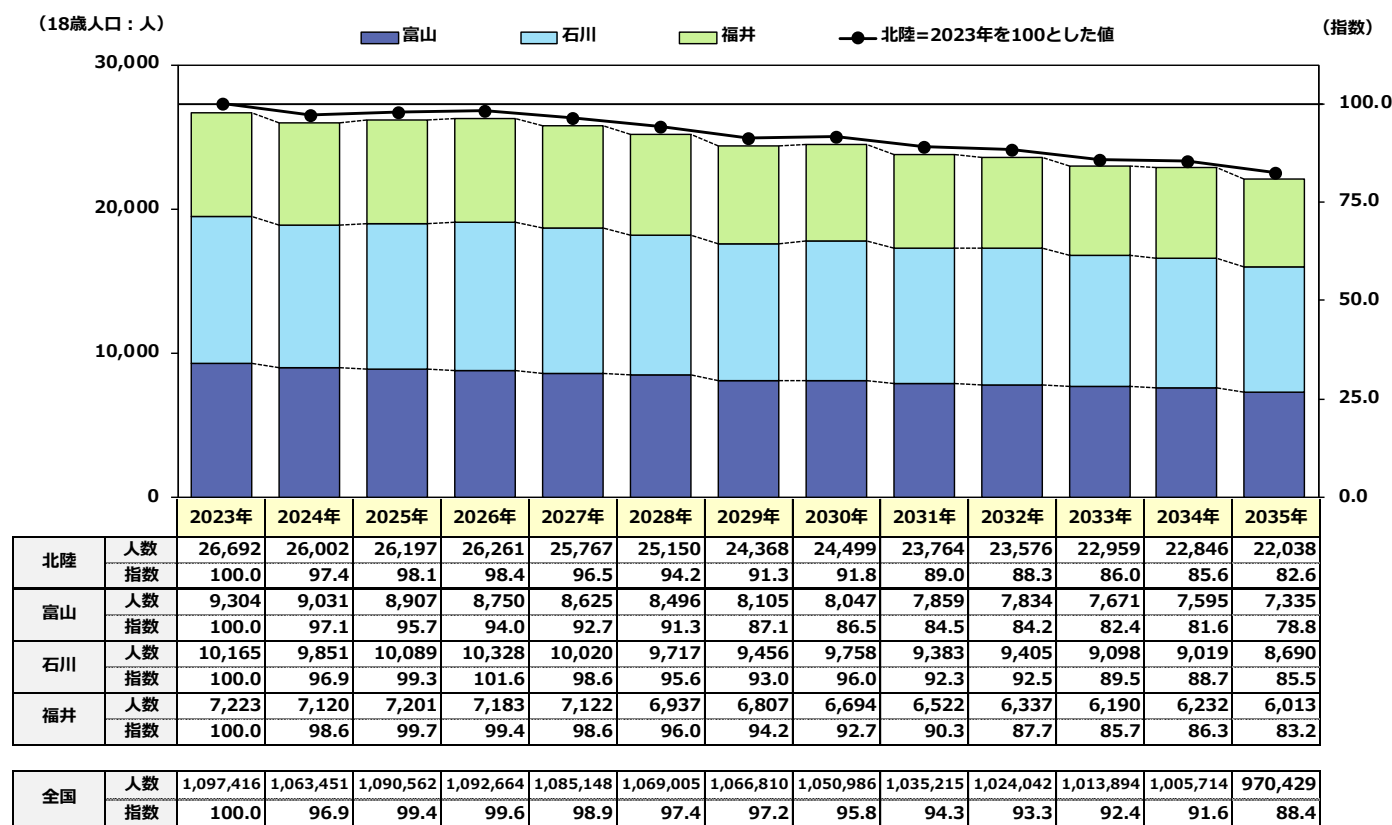
※専門学校＝専修学校専門課程

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルート リクルート進学総研
<https://souken.shingakunet.com/>

18歳人口予測（全体：北陸：2023～2035年）

■ 2023年26,692人→2035年22,038人（4,654人減少）

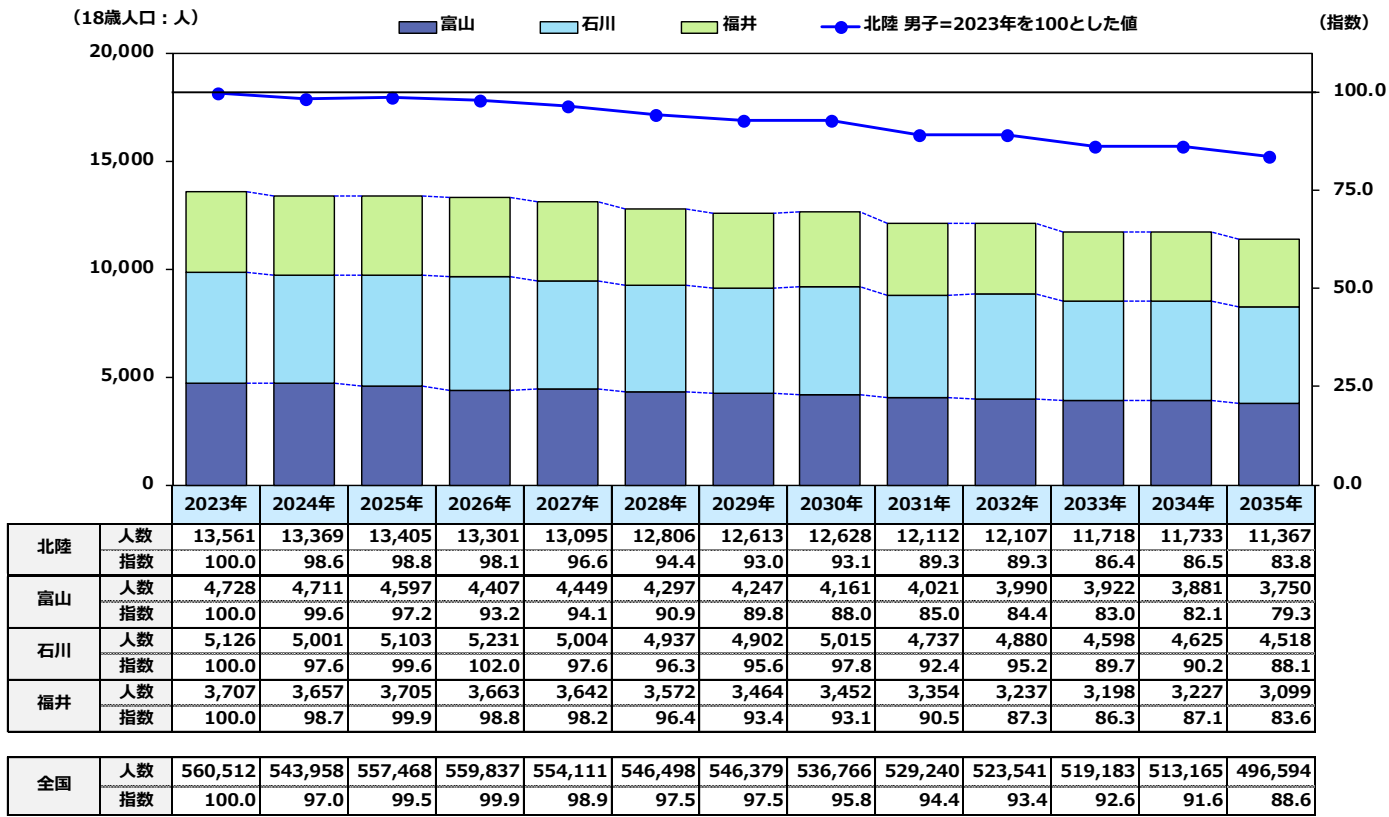
- ・北陸エリアは4,654人・17.4%減少し、全国の減少率11.6%を5.8ポイント上回る。
- ・2024年に26,002人まで減少し、2026年にかけて259人増加するが再び2029年まで減少、翌年2030年に微増するが、以降2035年まで減少に転じる。
- ・減少率が高いのは、富山県（2023年比較21.2%減少）。
- ・減少数が多いのも、富山県（2023年9,304人→2035年7,335人、1,969人減少）。



18歳人口予測（男子：北陸：2023～2035年）

■ 2023年13,561人→2035年11,367人（2,194人減少）

- ・ 男子は2,194人・16.2%減少し、全国の減少率11.4%を4.8ポイント上回る。
- ・ 2024年に13,369人まで減少し、翌2025年36人増加するが、再び減少。2030年に微増し、以降減少し、2034年に再び微増するが、2035年は減少する。
- ・ 減少率が高いのは、富山県（2023年比較20.7%減少）。
- ・ 減少数が多いのも、富山県（2023年4,728人→2035年3,750人、978人減少）。

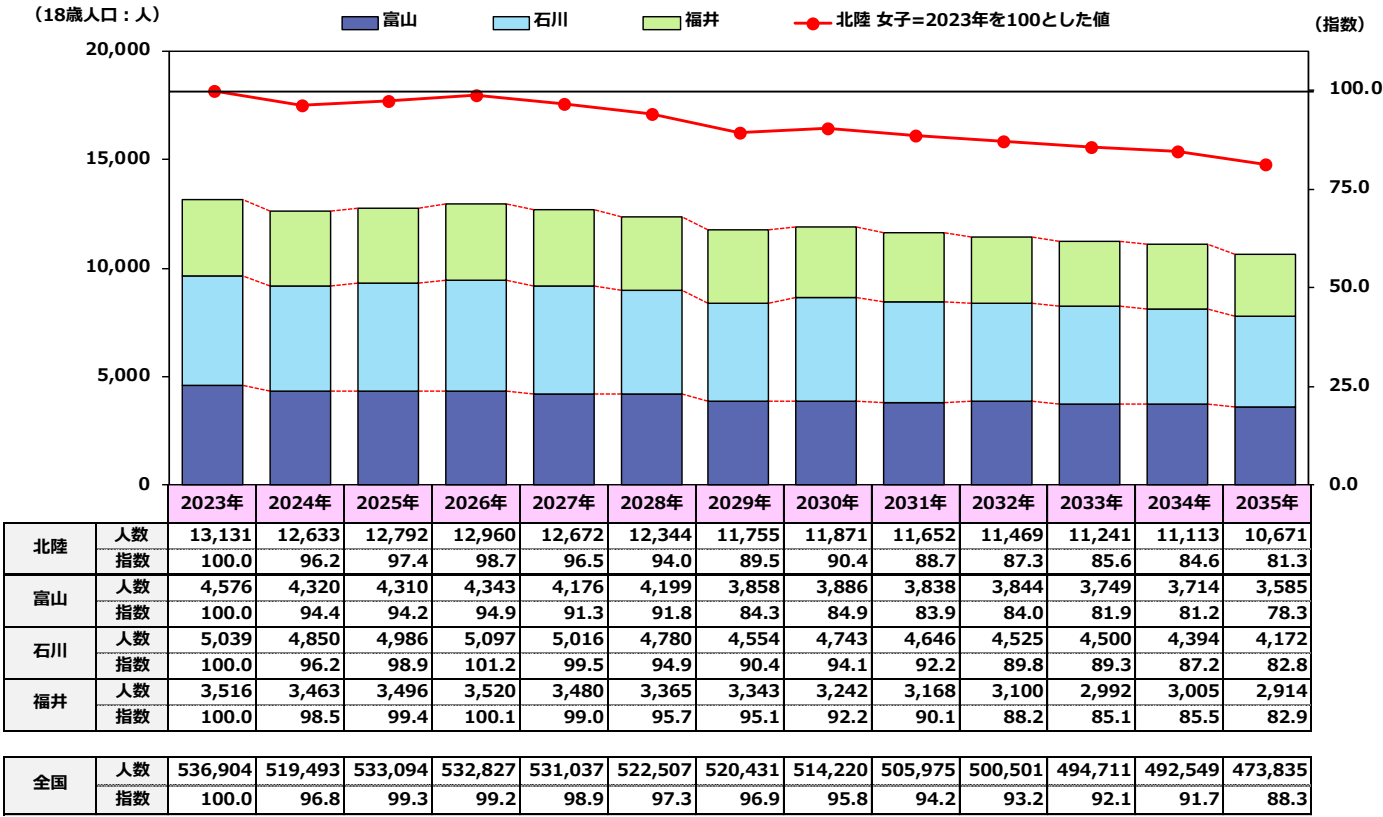


※データ元：文部科学省「学校基本調査」

18歳人口予測（女子：北陸：2023～2035年）

■ 2023年13,131人→2035年10,671人（2,460人減少）

- ・ 女子は2,460人・18.7%減少し、全国の減少率11.7%を7.0ポイント上回る。
- ・ 2024年に12,633人まで減少し、2026年にかけて327人増加するが、再び2029年まで減少、翌年の2030年は116人増加するが、以降2035年まで減少に転じる。
- ・ 減少率が高いのは、富山県（2023年比較21.7%減少）。
- ・ 減少数が多いのも、富山県（2023年4,576人→2035年3,585人、991人減少）。



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：北陸：2014～2023年）

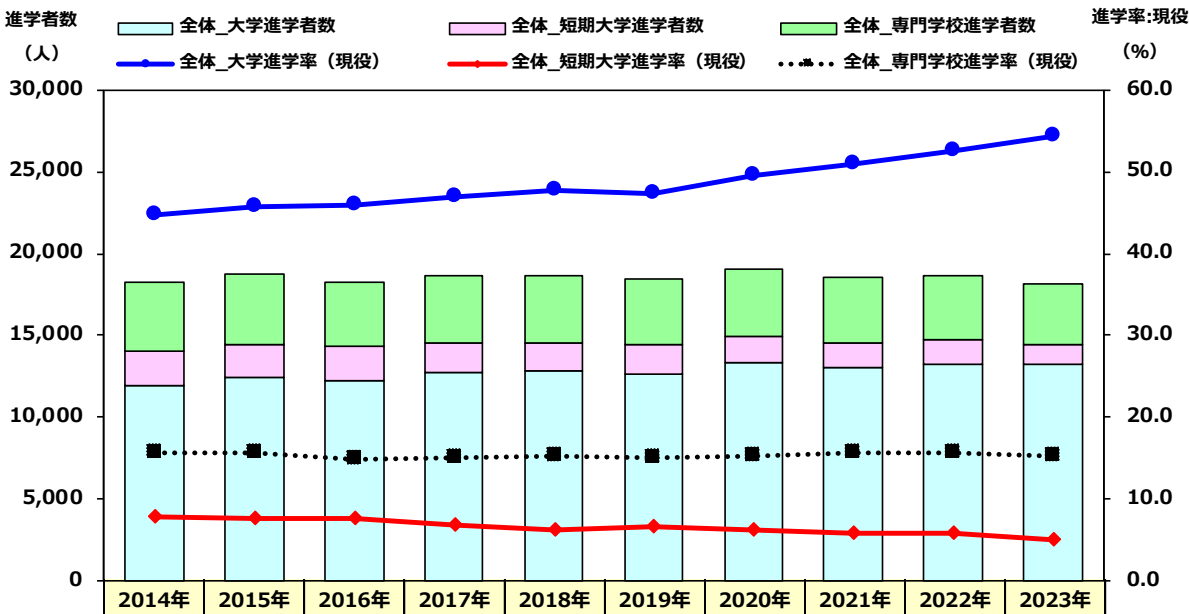
■ 10年で大学進学率が9.6ポイント上昇し、進学者数も1,300人増加する
一方、短期大学進学率は2.7ポイント、専門学校進学率は0.4ポイント低下し、
短期大学進学者数は842人、専門学校進学者数は465人減少

進学者数

- ・ 大学は、2014年11,959人→2023年13,259人（1,300人増加）と、10.9%増加。
- ・ 短期大学は、2014年2,059人→2023年1,217人（842人減少）と、40.9%減少。
- ・ 専門学校は、2014年4,182人→2023年3,717人（465人減少）と、11.1%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2014年44.8%→2023年54.4%（9.6ポイント上昇）。
- ・ 短期大学は、2014年7.7%→2023年5.0%（2.7ポイント低下）。
- ・ 専門学校は、2014年15.7%→2023年15.3%（0.4ポイント低下）。



北陸	卒業生数		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	進学者数	大学	11,959	12,427	12,251	12,758	12,852	12,662	13,309	13,066	13,242	13,259
		短期大学	2,059	2,047	2,037	1,818	1,656	1,744	1,651	1,499	1,467	1,217
		専門学校	4,182	4,262	3,972	4,099	4,099	4,028	4,078	3,994	3,967	3,717
	進学率 (現役)	大学	44.8	45.7	45.9	46.9	47.7	47.3	49.5	50.9	52.5	54.4
		短期大学	7.7	7.5	7.6	6.7	6.2	6.5	6.1	5.8	5.8	5.0
		専門学校	15.7	15.7	14.9	15.1	15.2	15.1	15.2	15.6	15.7	15.3

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（全体：県別：2014～2023年）

			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
富山	卒業生数（人）		9,106	9,365	9,161	9,115	9,195	9,142	9,192	8,720	8,517	8,308
	進学者数 （人）	大学	3,984	4,086	4,017	4,047	4,078	4,048	4,351	4,145	4,167	4,246
		短期大学	659	710	655	645	622	698	667	575	585	476
		専門学校	1,627	1,668	1,512	1,550	1,544	1,525	1,469	1,516	1,518	1,348
	進学率 （%）	大学	43.8	43.6	43.8	44.4	44.4	44.3	47.3	47.5	48.9	51.1
		短期大学	7.2	7.6	7.1	7.1	6.8	7.6	7.3	6.6	6.9	5.7
		専門学校	17.9	17.8	16.5	17.0	16.8	16.7	16.0	17.4	17.8	16.2
石川	卒業生数（人）		10,093	10,314	10,203	10,550	10,357	10,439	10,418	9,872	9,995	9,376
	進学者数 （人）	大学	4,665	4,847	4,765	4,953	5,038	5,014	5,221	5,100	5,405	5,170
		短期大学	759	717	773	751	621	678	620	572	579	438
		専門学校	1,438	1,512	1,404	1,428	1,435	1,439	1,518	1,423	1,426	1,362
	進学率 （%）	大学	46.2	47.0	46.7	46.9	48.6	48.0	50.1	51.7	54.1	55.1
		短期大学	7.5	7.0	7.6	7.1	6.0	6.5	6.0	5.8	5.8	4.7
		専門学校	14.2	14.7	13.8	13.5	13.9	13.8	14.6	14.4	14.3	14.5
福井	卒業生数（人）		7,483	7,503	7,348	7,564	7,365	7,167	7,260	7,089	6,705	6,667
	進学者数 （人）	大学	3,310	3,494	3,469	3,758	3,736	3,600	3,737	3,821	3,670	3,843
		短期大学	641	620	609	422	413	368	364	352	303	303
		専門学校	1,117	1,082	1,056	1,121	1,120	1,064	1,091	1,055	1,023	1,007
	進学率 （%）	大学	44.2	46.6	47.2	49.7	50.7	50.2	51.5	53.9	54.7	57.6
		短期大学	8.6	8.3	8.3	5.6	5.6	5.1	5.0	5.0	4.5	4.5
		専門学校	14.9	14.4	14.4	14.8	15.2	14.8	15.0	14.9	15.3	15.1

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：北陸：2014～2023年）

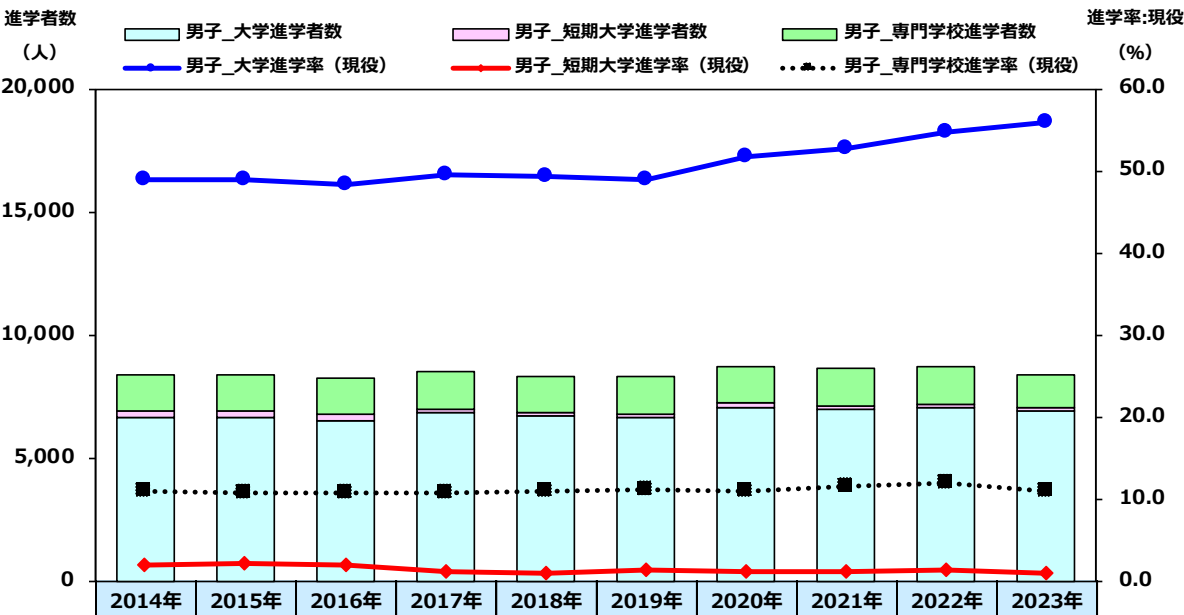
■ 男子では、10年間で大学進学率が7.0ポイント上昇、進学者数は265人増加
一方、短期大学進学率は1.0ポイント低下、専門学校進学率は変動なし
短期大学進学者数は141人、専門学校進学者数は136人減少

進学者数

- ・ 大学は、2014年6,629人→2023年6,894人（265人増加）と、4.0%増加。
- ・ 短期大学は、2014年267人→2023年126人（141人減少）と、52.8%減少。
- ・ 専門学校は、2014年1,492人→2023年1,356人（136人減少）と、9.1%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2014年48.9%→2023年55.9%（7.0ポイント上昇）。
- ・ 短期大学は、2014年2.0%→2023年1.0%（1.0ポイント低下）。
- ・ 専門学校は、2014年11.0%→2023年11.0%（変動なし）。



北陸	卒業者数		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
	進学者数	大学	6,629	6,641	6,518	6,843	6,694	6,624	7,073	6,954	7,026	6,894
		短期大学	267	282	258	163	125	186	145	159	178	126
		専門学校	1,492	1,454	1,454	1,477	1,488	1,518	1,490	1,529	1,535	1,356
	進学率 (現役)	大学	48.9	48.9	48.3	49.6	49.3	49.0	51.8	52.8	54.8	55.9
		短期大学	2.0	2.1	1.9	1.2	0.9	1.4	1.1	1.2	1.4	1.0
		専門学校	11.0	10.7	10.8	10.7	11.0	11.2	10.9	11.6	12.0	11.0

※データ元：文部科学省「学校基本調査」
・ 卒業者数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数
・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業者数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）
※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（男子：県別：2014～2023年）

			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
富山	卒業生数（人）		4,613	4,669	4,658	4,574	4,558	4,681	4,642	4,449	4,322	4,214
	進学者数 （人）	大学	2,160	2,155	2,147	2,113	2,071	2,173	2,253	2,160	2,195	2,154
		短期大学	96	96	90	85	67	106	81	76	89	63
		専門学校	533	542	509	512	503	519	494	568	587	502
	進学率 （％）	大学	46.8	46.2	46.1	46.2	45.4	46.4	48.5	48.6	50.8	51.1
		短期大学	2.1	2.1	1.9	1.9	1.5	2.3	1.7	1.7	2.1	1.5
		専門学校	11.6	11.6	10.9	11.2	11.0	11.1	10.6	12.8	13.6	11.9
石川	卒業生数（人）		5,100	5,096	5,148	5,425	5,302	5,284	5,357	5,062	5,141	4,737
	進学者数 （人）	大学	2,593	2,537	2,517	2,708	2,652	2,595	2,782	2,702	2,860	2,680
		短期大学	73	87	85	59	43	65	43	68	74	47
		専門学校	549	531	537	555	545	575	606	548	599	496
	進学率 （％）	大学	50.8	49.8	48.9	49.9	50.0	49.1	51.9	53.4	55.6	56.6
		短期大学	1.4	1.7	1.7	1.1	0.8	1.2	0.8	1.3	1.4	1.0
		専門学校	10.8	10.4	10.4	10.2	10.3	10.9	11.3	10.8	11.7	10.5
福井	卒業生数（人）		3,844	3,814	3,690	3,797	3,724	3,555	3,664	3,650	3,354	3,388
	進学者数 （人）	大学	1,876	1,949	1,854	2,022	1,971	1,856	2,038	2,092	1,971	2,060
		短期大学	98	99	83	19	15	15	21	15	15	16
		専門学校	410	381	408	410	440	424	390	413	349	358
	進学率 （％）	大学	48.8	51.1	50.2	53.3	52.9	52.2	55.6	57.3	58.8	60.8
		短期大学	2.5	2.6	2.2	0.5	0.4	0.4	0.6	0.4	0.4	0.5
		専門学校	10.7	10.0	11.1	10.8	11.8	11.9	10.6	11.3	10.4	10.6

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：北陸：2014～2023年）

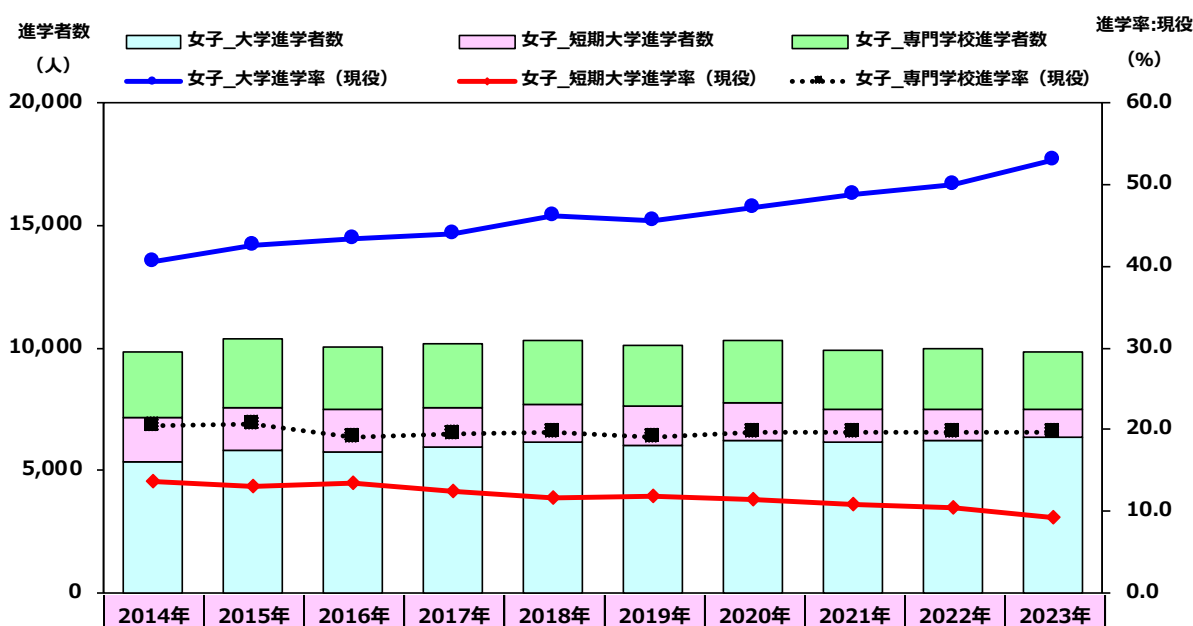
- 女子では、大学進学率が12.4ポイント上昇し、大学進学者数も1,035人増加
- 一方、短期大学進学率は4.6ポイント、専門学校進学率は0.8ポイント低下し
- それぞれの進学者数も701人、329人減少している

進学者数

- ・ 大学は、2014年5,330人→2023年6,365人（1,035人増加）と、19.4%増加。
- ・ 短期大学は、2014年1,792人→2023年1,091（701人減少）と、39.1%減少。
- ・ 専門学校は、2014年2,690人→2023年2,361人（329人減少）と、12.2%減少。

進学率（現役）

- ・ 大学は、2014年40.6%→2023年53.0%（12.4ポイント上昇）。
- ・ 短期大学は、2014年13.7%→2023年9.1%（4.6ポイント低下）。
- ・ 専門学校は、2014年20.5%→2023年19.7%（0.8ポイント低下）。



		2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
北陸	卒業生数	13,125	13,603	13,216	13,433	13,333	13,228	13,207	12,520	12,400	12,012
	進学者数	大学	5,330	5,786	5,733	5,915	6,158	6,038	6,236	6,112	6,365
		短期大学	1,792	1,765	1,779	1,655	1,531	1,558	1,506	1,340	1,091
		専門学校	2,690	2,808	2,518	2,622	2,611	2,510	2,588	2,465	2,361
	進学率（現役）	大学	40.6	42.5	43.4	44.0	46.2	45.6	47.2	48.8	53.0
		短期大学	13.7	13.0	13.5	12.3	11.5	11.8	11.4	10.7	9.1
		専門学校	20.5	20.6	19.1	19.5	19.6	19.0	19.6	19.6	19.7

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

・ 進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・ 進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

※専門学校＝専修学校専門課程

進学者数・進学率（現役）の推移（女子：県別：2014～2023年）

			2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
富山	卒業生数（人）		4,493	4,696	4,503	4,541	4,637	4,461	4,550	4,271	4,195	4,094
	進学者数（人）	大学	1,824	1,931	1,870	1,934	2,007	1,875	2,098	1,985	1,972	2,092
		短期大学	563	614	565	560	555	592	586	499	496	413
		専門学校	1,094	1,126	1,003	1,038	1,041	1,006	975	948	931	846
	進学率（％）	大学	40.6	41.1	41.5	42.6	43.3	42.0	46.1	46.5	47.0	51.1
		短期大学	12.5	13.1	12.5	12.3	12.0	13.3	12.9	11.7	11.8	10.1
		専門学校	24.3	24.0	22.3	22.9	22.4	22.6	21.4	22.2	22.2	20.7
石川	卒業生数（人）		4,993	5,218	5,055	5,125	5,055	5,155	5,061	4,810	4,854	4,639
	進学者数（人）	大学	2,072	2,310	2,248	2,245	2,386	2,419	2,439	2,398	2,545	2,490
		短期大学	686	630	688	692	578	613	577	504	505	391
		専門学校	889	981	867	873	890	864	912	875	827	866
	進学率（％）	大学	41.5	44.3	44.5	43.8	47.2	46.9	48.2	49.9	52.4	53.7
		短期大学	13.7	12.1	13.6	13.5	11.4	11.9	11.4	10.5	10.4	8.4
		専門学校	17.8	18.8	17.2	17.0	17.6	16.8	18.0	18.2	17.0	18.7
福井	卒業生数（人）		3,639	3,689	3,658	3,767	3,641	3,612	3,596	3,439	3,351	3,279
	進学者数（人）	大学	1,434	1,545	1,615	1,736	1,765	1,744	1,699	1,729	1,699	1,783
		短期大学	543	521	526	403	398	353	343	337	288	287
		専門学校	707	701	648	711	680	640	701	642	674	649
	進学率（％）	大学	39.4	41.9	44.1	46.1	48.5	48.3	47.2	50.3	50.7	54.4
		短期大学	14.9	14.1	14.4	10.7	10.9	9.8	9.5	9.8	8.6	8.8
		専門学校	19.4	19.0	17.7	18.9	18.7	17.7	19.5	18.7	20.1	19.8

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・卒業生数：高等学校卒業した人数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

・進学者数：高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校（※）に進学した人数

・進学率（現役）：進学者数（大学・短期大学・専門学校（※））÷高等学校卒業生数（全日制・定時制＋中等教育学校後期課程）

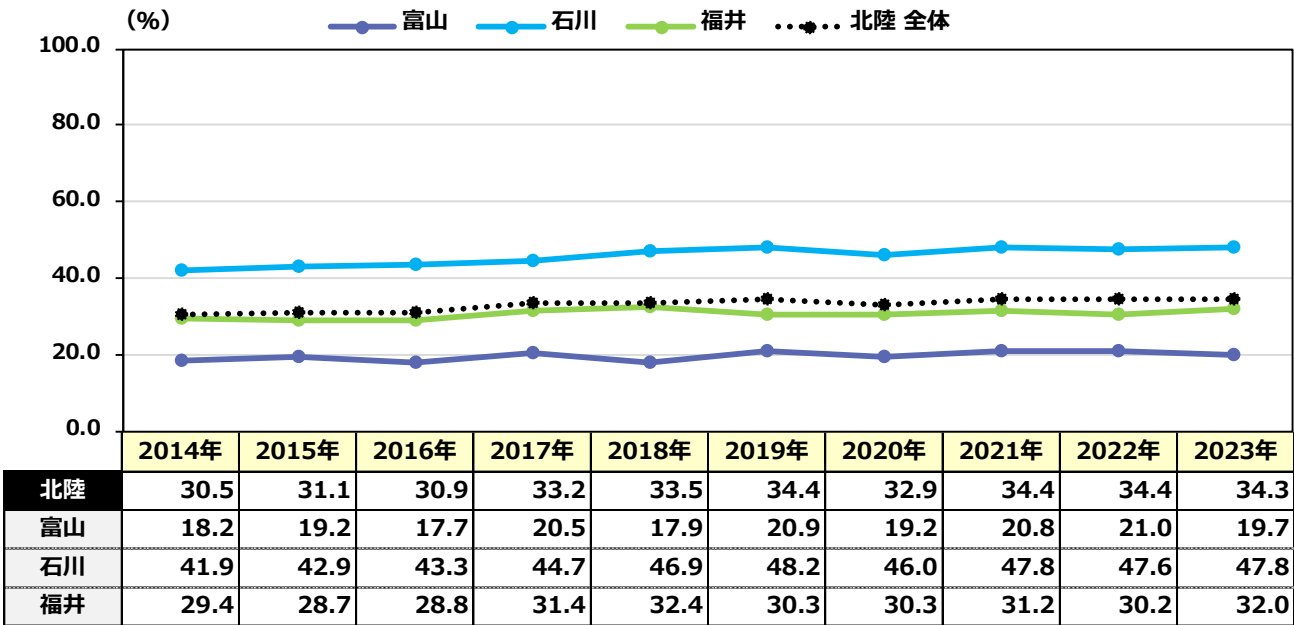
※専門学校＝専修学校専門課程

地元残留率の推移（全体：北陸：2014～2023年）

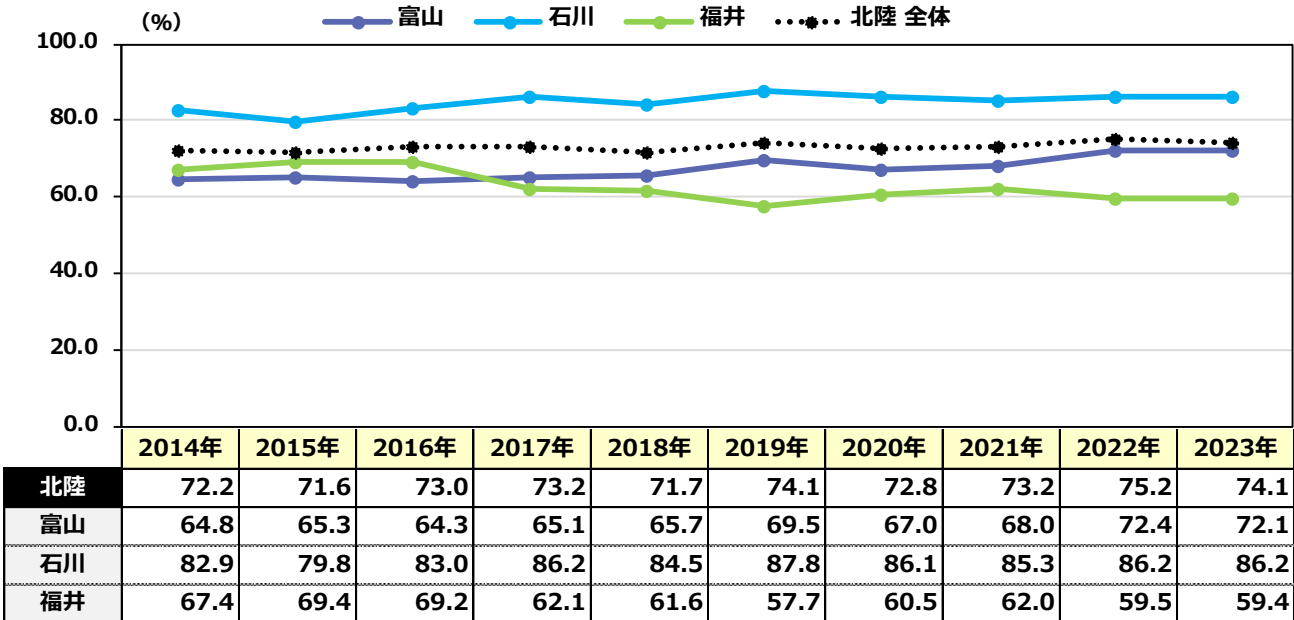
■大学は、2014年30.5%→2023年34.3%（3.8ポイント上昇）
 短期大学は、2014年72.2%→2023年74.1%（1.9ポイント上昇）

- ・大学で上昇率が高いのは、石川県（2014年41.9%→2023年47.8%、5.9ポイント上昇）。
- ・短期大学で上昇率が高いのは、富山県（2014年64.8%→2023年72.1%、7.3ポイント上昇）。

大学全体：地元残留率



短期大学全体：地元残留率



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

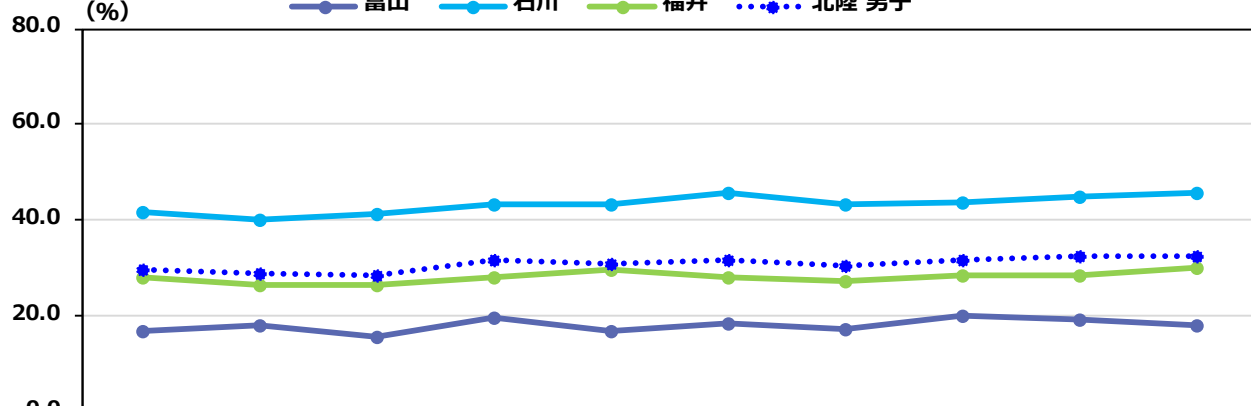
地元残留率の推移（男子：北陸：2014～2023年）

- 大学は、2014年29.6%→2023年32.4%（2.8ポイント上昇）
短期大学は、2014年62.3%→2023年60.6%（1.7ポイント低下）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、石川県（2014年41.5%→2023年45.5%、4.0ポイント上昇）。
- ・ 短期大学では、福井県を除き、富山県で17.7ポイント上昇、石川県は0.2ポイント低下。

大学男子：地元残留率

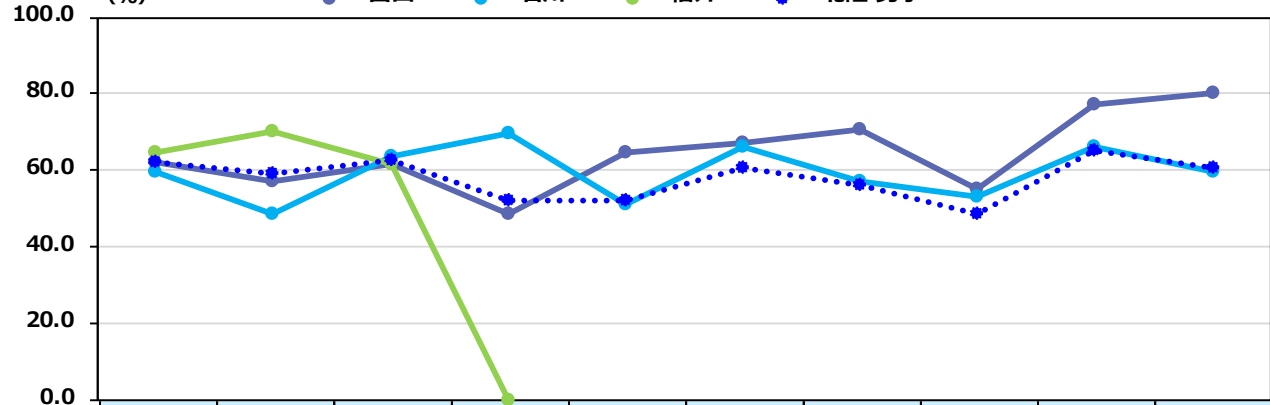
(%) 富山 石川 福井 北陸 男子



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
北陸	29.6	28.8	28.6	31.5	31.0	31.7	30.3	31.7	32.3	32.4
富山	16.9	17.9	15.5	19.4	16.6	18.4	17.2	20.0	19.2	18.1
石川	41.5	40.2	41.2	43.4	43.3	45.6	43.4	43.6	44.9	45.5
福井	27.8	26.3	26.3	28.2	29.8	28.2	27.0	28.3	28.4	30.2

短期大学男子：地元残留率

(%) 富山 石川 福井 北陸 男子



	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
北陸	62.3	59.1	62.5	51.8	51.8	60.5	56.3	48.5	65.1	60.6
富山	62.3	57.1	61.6	48.4	64.5	66.9	70.5	54.8	77.2	80.0
石川	59.8	48.6	63.8	69.6	51.1	66.2	57.1	52.9	65.9	59.6
福井	64.4	70.0	61.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

※データ元：文部科学省「学校基本調査」

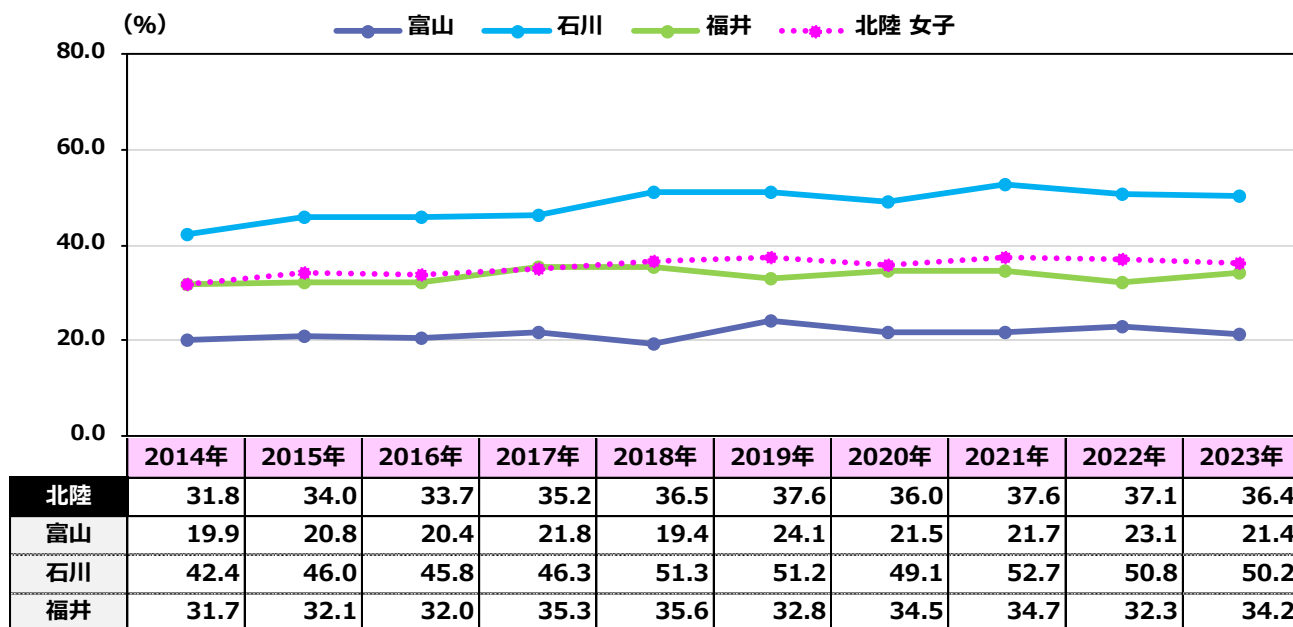
・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

地元残留率の推移（女子：北陸：2014～2023年）

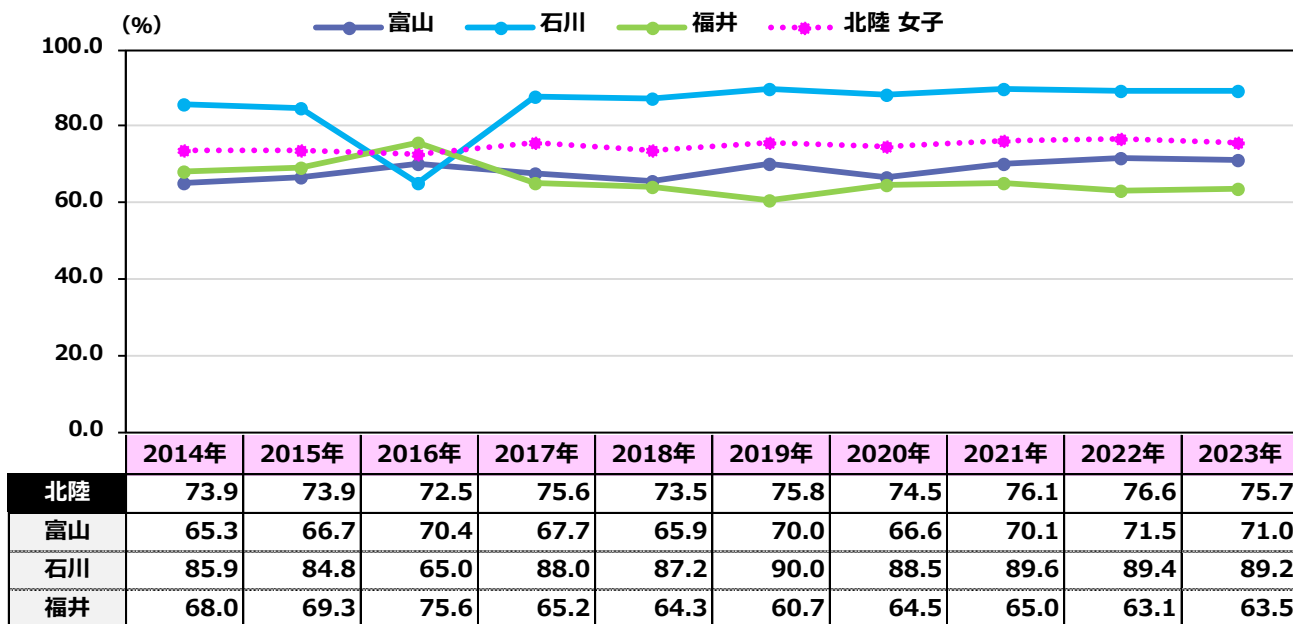
- 大学は、2014年31.8%→2023年36.4%（4.6ポイント上昇）
短期大学は、2014年73.9%→2023年75.7%（1.8ポイント上昇）

- ・ 大学で上昇率が高いのは、石川県（2014年42.4%→2023年50.2%、7.8ポイント上昇）。
- ・ 短期大学で上昇率が高いのは、富山県（2014年65.3%→2023年71.0%、5.7ポイント上昇）。

大学女子：地元残留率



短期大学女子：地元残留率



※データ元：文部科学省「学校基本調査」

・ 残留率：自県内（地元）の大学・短期大学入学者数のうち自県内（地元）の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合（浪人含）

北陸エリア概要（全体：県別）

富山県

学校数

大学 : 5 (国立 1・公立 1・私立 3)
短期大学 : 2 (私立 2)
専門学校 : 20 (公立 3・私立 17)

卒業者数

2014年9,106人→2023年8,308人(798人減少)

進学者数

大学 : 2014年3,984人→2023年4,246人(262人増加)
短期大学 : 2014年 659人→2023年 476人(183人減少)
専門学校 : 2014年1,627人→2023年1,348人(279人減少)

進学率（現役）

大学 : 2014年43.8%→2023年51.1% (7.3ポイント上昇)
短期大学 : 2014年 7.2%→2023年 5.7% (1.5ポイント低下)
専門学校 : 2014年17.9%→2023年16.2% (1.7ポイント低下)

残留率

大学 : 2014年18.2%→2023年19.7% (1.5ポイント上昇)
短期大学 : 2014年64.8%→2023年72.1% (7.3ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く

大学 : 1位石川(311人)、2位愛知(260人)、3位長野(152人)
短期大学 : 1位石川(8人)、2位茨城(3人)、3位北海道・愛知(2人)

入学者流出先

※地元は除く

大学 : 1位石川(891人)、2位東京(580人)、3位愛知(321人)
短期大学 : 1位石川(57人)、2位京都(13人)、3位東京(11人)

学校数

大学 : 14 (国立 2・公立 4・私立 8)
短期大学 : 4 (私立 4)
専門学校 : 34 (公立 3・私立 31)

卒業者数

2014年10,093人→2023年9,376人(717人減少)

進学者数

大学 : 2014年4,665人→2023年5,170人(505人増加)
短期大学 : 2014年 759人→2023年 438人(321人減少)
専門学校 : 2014年1,438人→2023年1,362人(76人減少)

進学率（現役）

大学 : 2014年46.2%→2023年55.1% (8.9ポイント上昇)
短期大学 : 2014年 7.5%→2023年 4.7% (2.8ポイント低下)
専門学校 : 2014年14.2%→2023年14.5% (0.3ポイント上昇)

残留率

大学 : 2014年41.9%→2023年47.8% (5.9ポイント上昇)
短期大学 : 2014年82.9%→2023年86.2% (3.3ポイント上昇)

入学者流入元

※地元は除く

大学 : 1位富山(891人)、2位長野(329人)、3位福井(323人)
短期大学 : 1位富山(57人)、2位福井(17人)、3位長野・兵庫(5人)

入学者流出先

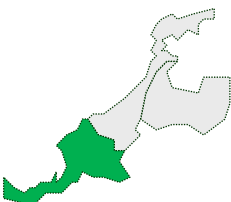
※地元は除く

大学 : 1位東京(460人)、2位京都(403人)、3位富山(311人)
短期大学 : 1位岐阜(23人)、2位富山(8人)、3位愛知・大阪(5人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2023年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

福井県



学校数

大学 : 6 (国立 1・公立 2・私立 3)
短期大学 : 1 (私立 1)
専門学校 : 18 (公立 2・私立 16)

卒業者数

2014年7,483人→2023年6,667人(816人減少)

進学者数

大学 : 2014年3,310人→2023年3,843人(533人増加)
短期大学 : 2014年 641人→2023年 303人(338人減少)
専門学校 : 2014年1,117人→2023年1,007人(110人減少)

進学率（現役）

大学 : 2014年44.2%→2023年57.6%(13.4ポイント上昇)
短期大学 : 2014年 8.6%→2023年 4.5%(4.1ポイント低下)
専門学校 : 2014年14.9%→2023年15.1%(0.2ポイント上昇)

残留率

大学 : 2014年29.4%→2023年32.0%(2.6ポイント上昇)
短期大学 : 2014年67.4%→2023年59.4%(8.0ポイント低下)

入学者流入元 ※地元は除く

大学 : 1位愛知(167人)、2位石川(138人)、3位富山(97人)
短期大学 : 1位石川(3人)、2位福島・京都(1人)

入学者流出先 ※地元は除く

大学 : 1位京都(517人)、2位大阪(383人)、3位石川(323人)
短期大学 : 1位京都(38人)、2位石川(17人)、3位岐阜(13人)

- ・学校数 : 大学・短期大学は本部の所在地 (2023年学校基本調査より)
- ・卒業者数 : 高等学校卒業した人数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・進学者数 : 高等学校卒業者のうち、大学・短期大学・専門学校(※)に進学した人数
- ・進学率(現役) : 進学者数(大学・短期大学・専門学校(※))÷高等学校卒業者数(全日制・定時制+中等教育学校後期課程)
- ・残留率 : 自県内(地元)の大学・短期大学入学者数のうち自県内(地元)の高校出身の大学・短期大学入学者数の割合(浪人含)
- ・流入 : 自県内(地元)の大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の高校出身者が大学・短期大学に入学したこと(浪人含)
- ・流出 : 自県内(地元)の高校出身者が大学・短期大学に入学したうち、自県以外(地元以外)の大学・短期大学に入学したこと(浪人含)

※専門学校=専修学校専門課程

女子生徒の短期大学への進学状況

1. 北陸三県の女子生徒における短大への進学者数（単位：人）

年度	短期大学の所在地		
	富山県	石川県	福井県
令和 5 年	434	417	293
令和 4 年	591	594	309
令和 3 年	583	529	349
令和 2 年	610	598	349
令和元年	617	633	359

2. 北陸三県の短大の女子入学者数（単位：人）

年度	短期大学の所在地		
	富山県	石川県	福井県
令和 5 年	330	466	192
令和 4 年	471	643	197
令和 3 年	405	594	231
令和 2 年	448	683	231
令和元年	474	693	227

3. 石川県内短大の入学者内訳（単位：人）

年度	高校の所在地			
	富山県	石川県	福井県	3 県外
令和 5 年	55	372	16	23
令和 4 年	83	519	11	30
令和 3 年	69	474	18	33
令和 2 年	101	529	16	37
令和元年	89	570	20	14

データ元：学校基本調査

< 県内短大の入学選抜状況（2018年度～）>

※1 黄色塗りは経営実務科と競合すると考える他短大の学科>

参考資料

【金沢星稜大学女子短期大学部】

学科	定員		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
経営実務	150名	志願者数	401名	381名	340名	284名	296名	192名
		入学者数	181名	175名	154名	133名	125名	107名
定員充足率			120.7%	116.7%	102.7%	88.7%	83.3%	71.3%

【金沢学院短期大学】

学科	定員		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
現代教養	50名	志願者数	51名	59名	93名	105名	92名	73名
		入学者数	36名	44名	45名	52名	61名	52名
食物栄養	60名	志願者数	75名	93名	153名	106名	149名	107名
		入学者数	48名	42名	60名	46名	65名	72名
幼児教育	50名	志願者数	46名	63名	37名	59名	60名	36名
		入学者数	31名	34名	24名	48名	38名	30名
合計 160名		志願者数合計	172名	215名	283名	270名	301名	216名
		入学者数合計	115名	120名	129名	146名	164名	154名
定員充足率			71.9%	75%	80.6%	91.3%	102.5%	96.3%

【金城大学短期大学部】

学科	定員		2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
幼児教育	150名	志願者数	131名	148名	132名	135名	123名	82名
		入学者数	110名	122名	114名	94名	97名	75名
美術	65名	志願者数	58名	84名	99名	120名	101名	83名
		入学者数	50名	72名	82名	84名	75名	70名
ビジネス 実務	135名	志願者数	138名	163名	160名	141名	129名	112名
		入学者数	120名	142名	142名	104名	112名	92名
合計	350名	志願者数合計	327名	395名	391名	396名	353名	277名
		入学者数合計	280名	336名	338名	282名	284名	237名
定員充足率			80.0%	96.0%	96.6%	80.6%	81.1%	67.7%

【県内短大全体】

	2018 年度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
志願者数	1033名	1150名	1167名	1101名	1081名	685名
入学者数	673名	745名	719名	645名	643名	498名

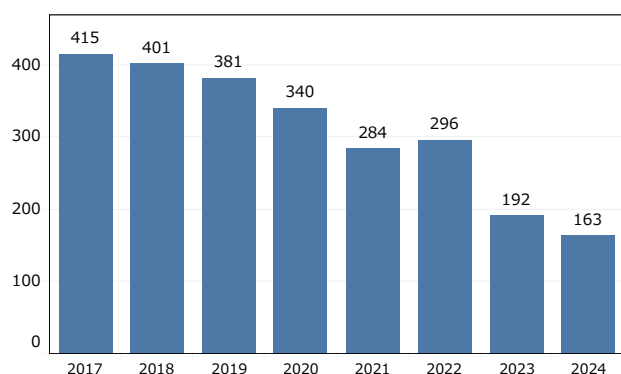
- 北陸学院短期大学部、2023年度より募集停止。
- どの短大も近年において募集定員に対し、入学者確保に苦戦している。
- 志願者数の一定水準での推移及び増加もみられるが、全体的な入学者数は減少傾向にある。
- 特に幼児教育関連の学科にて志願者の顕著な減少及び定員確保が叶っていない状況から、2020年度からのコロナ禍を挟み、短大層の高校生に専門学校進学（手に職）の意識が強くなった可能性も考えられる。併せて、同年からの高等教育無償化による4大志向の向上も一因と考える。
- 国公立大学の3月末までの追加合格者吸い上げに連動し、短大合格者を上位私大が吸収している可能性も大きい。
- 2023年度における県内3短大の志願者・入学者の数値が過年度と比較して著しく減少した。

【志願者・入学者の状況】

- ・志願者は自動併願を含めた人数を表示しているため、「学校基本調査」及び「学校法人基礎調査」にて報告している人数と異なります。
- ・入学者数は各年度 4 月 1 日時点の人数であるため、在籍学生数（5 月 1 日時点）の数値と異なる場合があります。

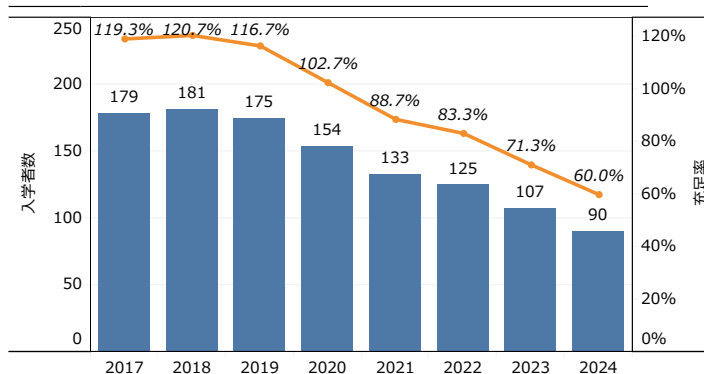
・志願者数

	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
経営実務科	415	401	381	340	284	296	192	163



・入学者数、定員、充足率

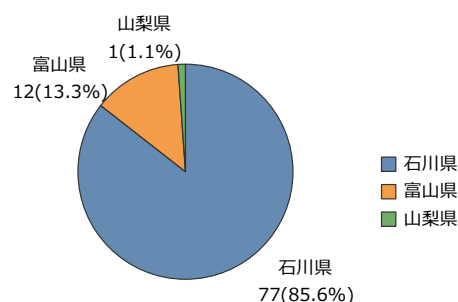
	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
入学者数	179	181	175	154	133	125	107	90
定員	150	150	150	150	150	150	150	150
充足率	119.3%	120.7%	116.7%	102.7%	88.7%	83.3%	71.3%	60.0%



・出身校都道府県別入学状況

入学者総数【90名】

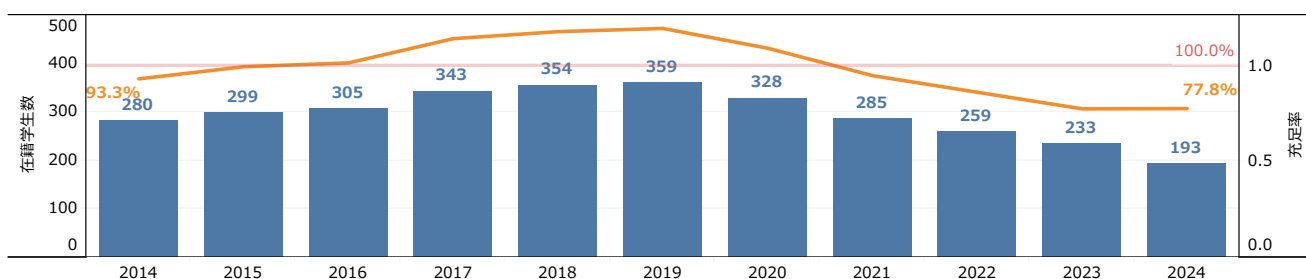
	入学者数	割合
石川県	77	85.6%
富山県	12	13.3%
山梨県	1	1.1%



【在籍学生の状況】

・在籍学生数の推移（人数は各年度 5 月 1 日時点）

	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
収容定員	300	300	300	300	300	300	300	300	300	300	248
在籍学生数	280	299	305	343	354	359	328	285	259	233	193
1年次	157	143	167	179	181	175	154	133	125	107	90
2年次	123	156	138	164	173	184	174	152	134	126	103
充足率	93.3%	99.7%	101.7%	114.3%	118.0%	119.7%	109.3%	95.0%	86.3%	77.7%	77.8%



・社会人、留学生について

2023年度 該当者なし

・学年別中途退学者数（2022（R4）年 4 月 1 日～2023（R5）年 3 月 31 日）

	1年次	2年次	合計	退学率	基準人数
経営実務科	6	5	11	4.7%	233

※基準人数は2023年 5 月 1 日時点の在籍学生数

・最低在籍年限超過学生数（2024（R6）年 5 月 1 日時点）

	2022(R4) 年度入学 者	合計
経営実務科	2	2

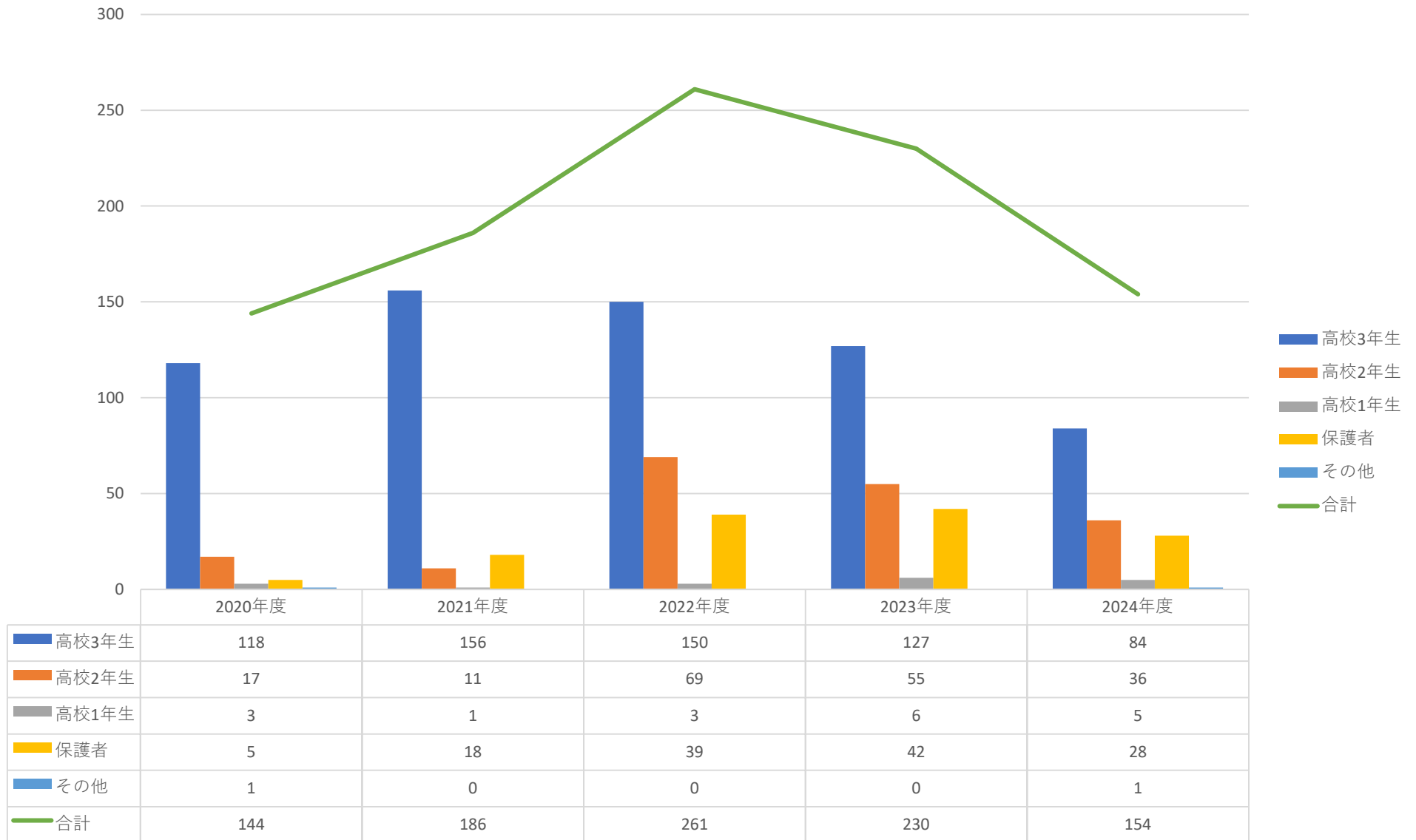
金沢星稜大学女子短期大学部 資料請求件数(学年別) (2022年度～2024年度)

職業・年齢	2022/4	2022/5	2022/6	2022/7	2022/8	2022/9	2022/10	2022/11	2022/12	2023/1	2023/2	2023/3	合計
高校1年生	28	24	38	52	39	8	14	17	10	11	31	92	364
高校2年生	289	87	54	99	82	30	22	17	24	35	105	72	916
高校3年生	71	68	71	57	35	30	10	10	22	14	5	4	397
高校生(既卒)	17	12	25	21	4	10	4	3	6	7	1	8	118
予備校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短大生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
高専生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門学校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
社会人	0	2	3	3	3	1	0	0	2	2	0	0	16
保護者	0	5	2	1	0	0	2	0	0	0	0	2	12
その他	4	12	6	7	5	3	3	3	4	3	7	4	61
合計	409	210	199	240	168	82	55	50	68	72	149	184	1886

職業・年齢	2023/4	2023/5	2023/6	2023/7	2023/8	2023/9	2023/10	2023/11	2023/12	2024/1	2024/2	2024/3	合計
高校1年生	14	15	30	42	32	33	15	20	21	12	33	27	294
高校2年生	332	92	63	49	59	40	12	16	39	28	108	57	895
高校3年生	159	88	61	59	39	28	14	12	10	12	8	9	499
高校生(既卒)	5	13	2	22	0	2	2	3	3	1	0	0	53
予備校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2
大学生	0	0	3	0	0	0	0	2	0	0	0	0	5
短大生	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
高専生	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
専門学校生	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人	0	0	3	4	1	3	2	1	0	0	0	0	14
保護者	0	5	0	2	0	3	0	0	0	1	0	1	12
その他	10	9	2	1	10	1	5	3	3	5	2	0	51
合計	520	222	164	181	142	110	51	57	76	59	153	94	1829

職業・年齢	2024/4	2024/5	2024/6	2024/7	2024/8	2024/9	2024/10	2024/11	合計
高校1年生	27	31	21	19	21	233	55	7	414
高校2年生	233	62	65	92	32	492	62	4	1042
高校3年生	78	74	69	50	49	23	16	4	363
高校生(既卒)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予備校生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大学生	0	2	0	2	0	0	0	0	4
短大生	0	0	0	0	0	0	1	0	1
高専生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
専門学校生	0	0	0	0	0	2	0	0	2
中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人	1	0	3	1	1	1	2	0	9
保護者	0	3	2	0	1	2	0	0	8
その他	3	8	4	6	0	17	4	0	42
合計	342	180	164	170	104	770	140	15	1885

金沢星稜大学女子短期大学部
オープンキャンパス参加者数推移（2020年度～2024年度）



金沢星稜大学女子短期大学部オープンキャンパス参加者数推移（2020年度～2024年度）

2024年度（対面開催）

	合計
高校3年生	84
高校2年生	36
高校1年生	5
保護者	28
その他	1
合計	154

2024年度日程内訳

	6/15（土）	7/13（土）	7/14（日）	8/10（土）	8/11（日）	8/28（土）	3/22（土）	合計
高校3年生	18	12	14	21	14	5		84
高校2年生	0	3	4	24	1	4		36
高校1年生	0	3	0	2	0	0		5
保護者	4	4	5	7	4	4		28
その他	0	0	0	0	0	1		1
合計	22	22	23	54	19	14	0	154

2023年度（対面開催）

	合計
高校3年生	127
高校2年生	55
高校1年生	6
保護者	42
その他	0
合計	230

2023年度日程内訳

	6/25（日）	7/29（土）	7/30（日）	8/12（土）	8/26（土）	8/27（日）	3/23（土）	合計
高校3年生	19	22	27	23	18	18	0	127
高校2年生	0	9	10	7	8	6	15	55
高校1年生	0	1	2	1	0	0	2	6
保護者	5	3	9	11	2	7	5	42
その他	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	24	35	48	42	28	31	22	230

2023年度（対面開催）

2022年度（対面開催）

	合計
高校3年生	150
高校2年生	69
高校1年生	3
保護者	39
その他	0
合計	261

2022年度日程内訳

	6/26（日）	7/24（日）	8/13（土）	8/14（日）	8/27（土）	8/28（日）	9/17（土）	3/25（土）	合計
高校3年生	12	44	31	16	22	14	11	0	150
高校2年生	0	8	12	3	13	7	4	22	69
高校1年生	0	1	0	0	0	2	0	0	3
保護者	2	11	9	4	3	3	4	3	39
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	14	64	52	23	38	26	19	25	261

2021年度（WEB（7/11）+対面開催）

	合計
高校3年生	156
高校2年生	11
高校1年生	1
保護者	18
その他	0
合計	186

2021年度日程内訳

	7/11（日）	7/24（土）	7/25（日）	9/4（土）	9/5（日）	9/20（月・祝）	合計
高校3年生	8	36	15	28	24	45	156
高校2年生	0	0	2	3	2	4	11
高校1年生	0	0	1	0	0	0	1
保護者	0	4	3	3	3	5	18
その他	0	0	0	0	0	0	0
合計	8	40	21	34	29	54	186

2020年度OC（WEB開催のみ）

	合計
高校3年生	118
高校2年生	17
高校1年生	3
保護者	5
その他	1
合計	144

2020年度日程内訳

	8/22（土）	8/23（日）	9/13（日）	合計
高校3年生	60	28	30	118
高校2年生	4	8	5	17
高校1年生	2	0	1	3
保護者	1	2	2	5
その他	1	0	0	1
合計	68	38	38	144

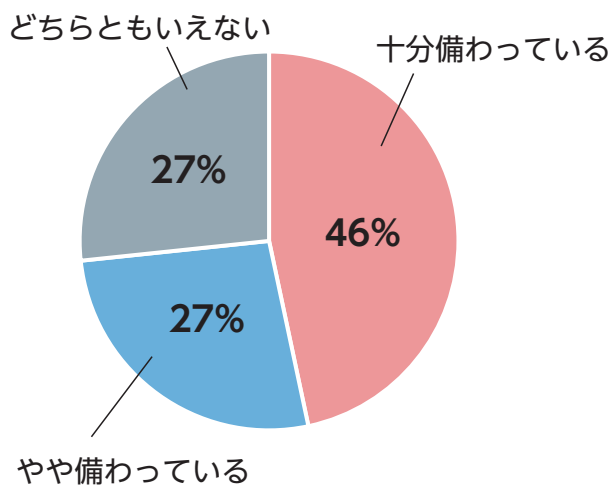
金沢星稜大学女子短期大学部 企業アンケート結果

令和6年6月
進路支援課

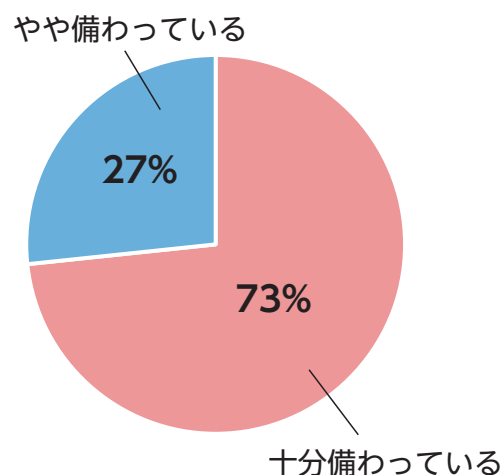
実施時期:令和6年3月 回答企業数 15社

問1

幅広い教養や社会常識

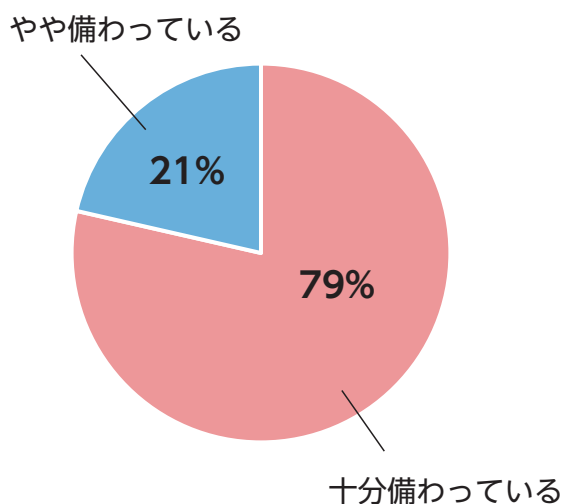


問2

職業人としての基礎力
(協調性・規律性・責任感)

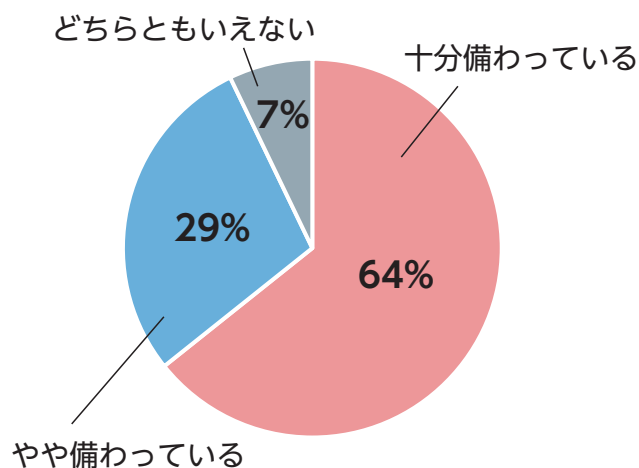
問3

他社(弱者)への理解と態度



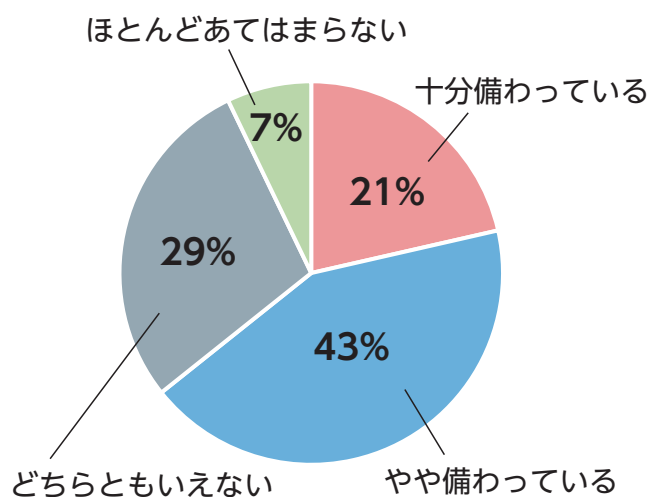
問4

社会的責任の理解や態度



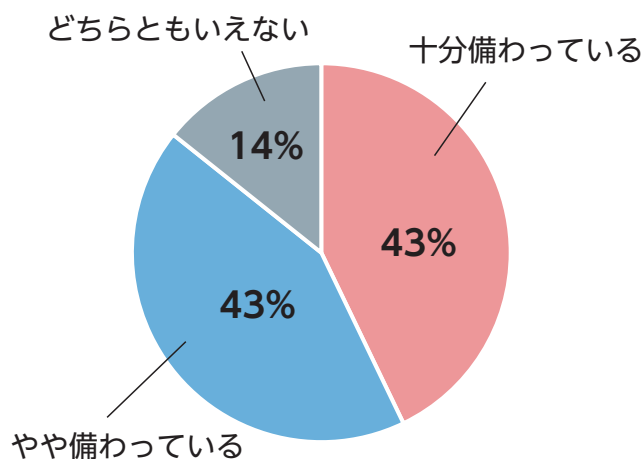
問5

リーダーシップや周りへの指導力



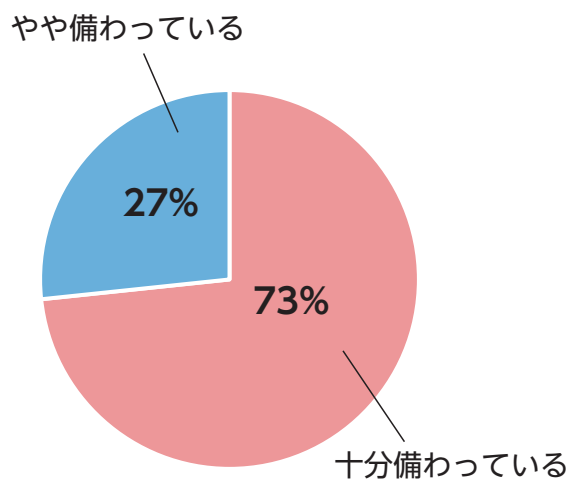
問6

資格やスキル向上など自己啓発志向



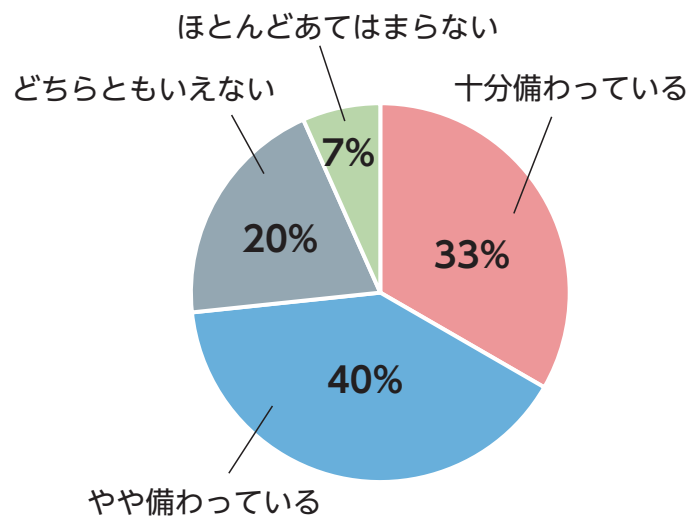
問7

チームとして働く力



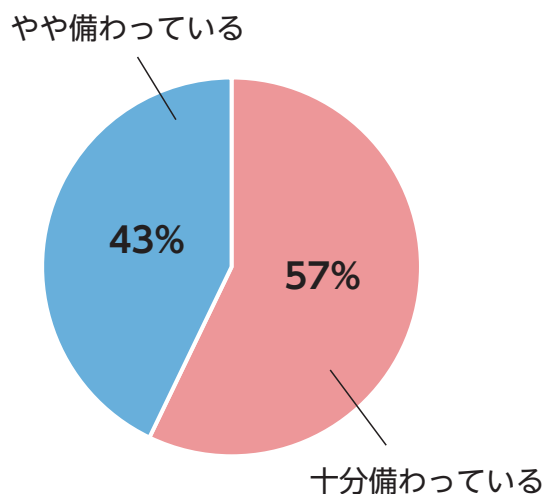
問8

主体性や積極性



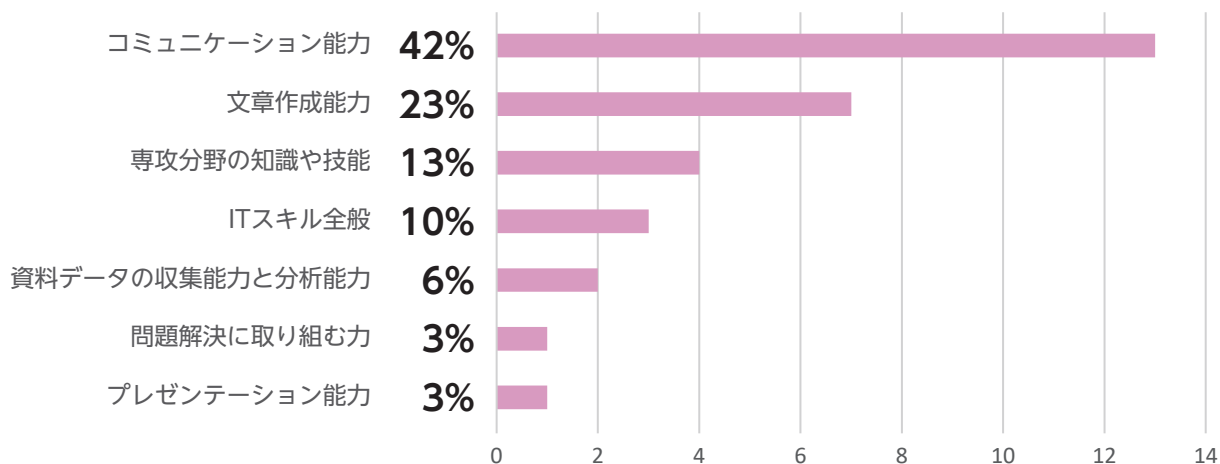
問9

他人の意見の傾聴力



問10

備わっている能力(複数回答可)

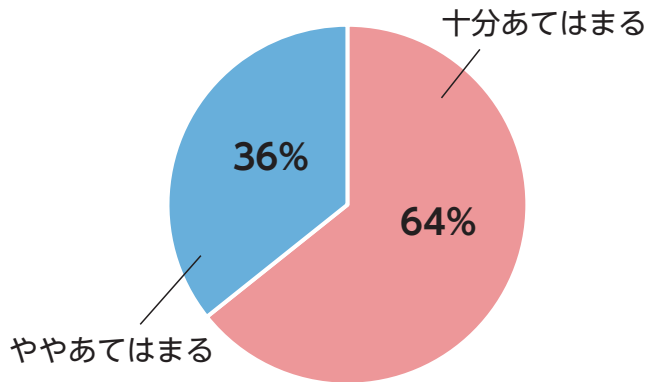


金沢星稜大学女子短期大学部の印象について5段階評価でお答えください

回答企業数15社

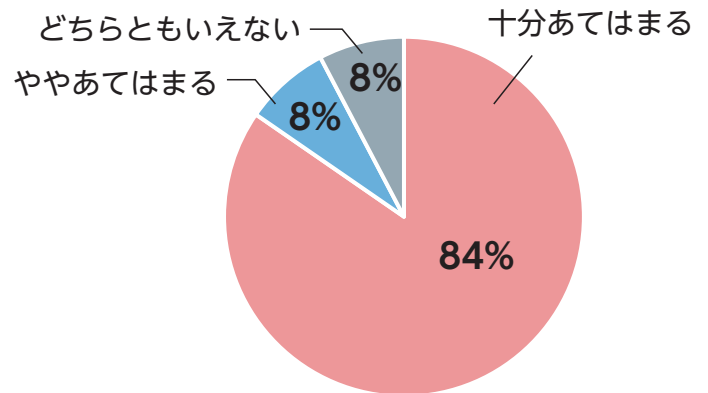
問11

全体としてニーズや期待に応じられる学生を送り出している短大だ



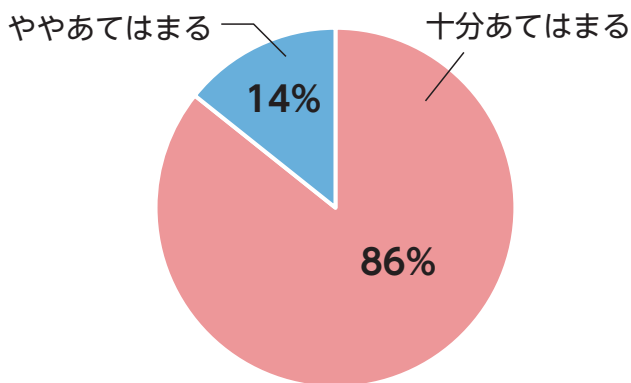
問12

学生教育に熱心な短大だ



問13

今後も卒業生を積極的に採用したい短大だ



問14

本学卒業生、および金沢星稜大学女子短期大学部について、何かお気づきの点やご意見がございましたら、是非お聞かせください。

- 皆さんそれぞれ個性があり、その個性をいい方向で会社に生かしてくれています。逆に採用させて頂いている一般事務職では、アンケートにあった「採用頂いた星短の卒業生には次の知識や技能、能力は備わっていたでしょうか。」の項目でほぼ活用する機会の無い項目（など）がありまして、卒業生のポテンシャルを引き出してあげられていないのかなと思いました。
- 2024 年度4月にお一人貴学から入社されます。昨日まで数日慣らし運転を兼ねてアルバイトをして頂きましたが、仕事を覚えるのがはやく、社員は驚いています。また、笑顔も素敵で社外、お得意様からは誉めて頂いたほどです。
- 引き続きご指導よろしくお願いいたします。精一杯ご支援できればと存じます。
- 非常に責任感が強く、効率的に業務を進められていらっしゃいます。若手ながらも、各配属先で既に頼られる存在として働かれており、良い事例などは取り入れ、横展開をして頂く事もございます。大変素晴らしい方ばかりです。

教員名簿（学長） 目次

学長の氏名等.....	P 2
-------------	-----

教 員 名 簿

学 長 又 は 校 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
-	学長	キシモト ヒデカズ 岸本 秀一 <令和6年4月>		経営学博士		金沢星稜大学女子短期大学部 学長 (令和6.4~令和10.3)